# 関川村歯科保健計画





平成23年3月 新潟県 関川村



# はじめに「保歯」

関川村長 平 田 大 六

「関川村歯科保健計画」を発表させていただきます。これは2005年3月、「村民あげての健康づくり…関川村は大したもん蛇」のサブタイトルでつくりました『健康せきかわ21』の各論にもなるものです。人々の健康に、歯が重要な役割を果たしていることは、一般に広く理解されているところです。その歯を守ること、「保歯」という言葉はまだ辞書にはありませんが使わせていただきます。歯を守ることを、保歯を、村民あげて実践して、村民が健康である村づくりを、というのがこの計画の目的です。

計画づくりは、2009年からはじめました。日本歯科大学、地域の歯科の専門家、村上地域振興局、村内有識者をはじめ、多くの方々に策定委員になっていただきつくられたものです。また、たくさんの村民の方々にもアンケートという形でご協力いただきました。30~79歳の全村民を対象に実施しましたところ回収率86%という多数の方々にお答えいただき、確度の高い集計をすることができました。お礼申しあげます。

巻末の資料には、そのアンケートのまとめや、県との比較もあります。乳児から 青少年期の状況や、関川村では「保歯」については女性の関心が高いこともわかり ました。この計画をとおして、多くの村民の方々の「歯の健康」の意識が高まり、「村 民あげての健康づくり…関川村は大したもん蛇」になっていただくことを願ってい ます。

# 目 次

第	1	章 関川村歯科保健計画の基本方針	
	1.	計画策定の背景	3
	2.	基本理念	3
	3.	位置づけ	3
	4.	地域への計画周知方法	3
	5.	計画の期間・評価方法	4
	6.	歯科保健計画の主要な取り組み	4
第	2	章 ライフステージ別計画等 (現状と課題、保健行動の目標、具体的な対策	ゎ)
	1.	乳幼児期	6
	2.	学童・思春期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
	3.	青壮年期・妊産婦・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
	4.	高齢期	14
	5.	要介護者・障害者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
	6.	関川村歯科保健計画 年次計画	20
	7.	関川村歯科保健計画推進体制図	21
	8.	ダイジェスト版	23
第	3	章 資料編	
	1.	乳幼児期、学童・思春期	26
	2.	青壮年期、高齢期、要介護者	36
	3.	国保レセプト分析	47
	4.	フォーカスグループインタビュー	49
	5.	第1回関係者協議会意見交換	53
	6.	第3回関係者協議会意見交換	55
	7.	計画策定経過	60
	8.	策定委員名簿	61

# 第1章 関川村歯科保健計画の基本方針



# 関川村歯科保健計画の基本方針 (タンプ

# 1. 計画策定の背景

歯や口の健康づくりは単にむし歯予防という考え方から今では、メタボリックシンドロームや糖尿病などの生活習慣病予防等全身の健康に影響していることが明らかになり、生活習慣病予防の一つという考え方に変わってきました。新潟県では昭和56年から「むし歯半減10ヵ年運動」に取り組み、その後「ヘルシースマイル2000プラン」、現在「ヘルシースマイル21」という歯科保健医療総合計画を策定し、保健と医療福祉が連携した予防の取り組みを実施しています。その結果、新潟県は10年連続中学1年生一人平均むし歯数が全国一少ないという成果が出ております。しかし、市町村により格差があるため平成20年に全国初となる「新潟県歯科保健推進条例」を制定し、県民が生涯を通じて健康な生活を送れるように市町村への支援を行うこととなりました。

関川村は近年出生数が40人を下回り、また65歳以上の人口は総人口の34.5%を占める超高齢が進行しております。それゆえ、歯や口の健康を通じて生活習慣を見直し、介護予防につなげていく必要があります。また、子どものむし歯も県内平均より多いのが現状であり、村民一人ひとりが歯と口の健康を保ち、生活の質を向上できるよう生涯を通じての歯科保健対策を講じることが課題となっています。そこで、県の「条例推進重点市町村支援事業」を活用し、歯科保健を総合的かつ計画的に推進するための指針として、「関川村歯科保健計画」を策定しました。

# 2. 基本理念

関川村健康づくり計画「健康せきかわ21」を上位計画とし、「健康せきかわ21」の基本理念である心がかよいあう福祉と健康のために、住民一人ひとりが健康づくりに取り組み、「すこやかで、いきがいに満ちた生活ができる」地域づくりを目指します。

# 3. 位置づけ

次に示す各計画との整合を図ります。

- \*関川村健康づくり計画(健康せきかわ21):「第5次関川村総合計画」の重点施策に健康づくり施策 の推進が掲げられておりその行動計画を具体的に定めたもの
- \* 関川村次世代育成支援行動計画
- \*関川村食育推進計画

# 4. 地域への計画周知方法

- ① 広報せきかわや村のホームページに掲載します。
- ② 計画のダイジェスト版を各戸配布します。
- ③ 関係機関に冊子を配布し、目標を共有して活動を広めていきます。

# 5. 計画の期間・評価方法

この計画は上位計画である関川村健康づくり計画の実施期間にあわせ、平成23年度を初年度とし、 平成27年度を目標年度とする5ヵ年計画として年次計画に沿って取り組みます。進捗状況の確認や修 正の有無などは毎年2回開催する「健康づくり推進協議会」で行います。評価を行う際には、関係者 の他、広く村民が参加して行う体制を確立し、この結果を広報等で広く村民に公開します。

# 6. 歯科保健計画の主要な取り組み

### <長期目標>

村民一人ひとりが生涯、歯と口の健康を保ち、その人らしい快適な生活を送れる。そのために、

- ① 村民を主体にした計画・実施・評価を推進し、保健・医療・福祉の関係機関との連携を強化しながら、計画を推進していきます。
- ② 歯や口の健康づくりを具体的に行い、全身の健康づくりへつなげていきます。
- ③ 村民がセルフケアできる能力を身につけ、家族・地域でサポートしあえる関係づくりを目指します。

## <中期目標>

- ◇歯や口に関する正しい知識が広まり、日頃から家族みんなで手入れが適切に行える。
- ◇むし歯や歯周病になりにくい生活習慣が身につく。
- ◇歯科のイメージが改善し、自分の歯と口に関心がもてる。



# 第2章 ライフステージ別計画等

(現状と課題、保健行動の目標、具体的な対策)



# ライフステージ別計画

# 長期目標(望ましい姿)

◆村民一人ひとりが生涯、歯と口の健康を保ち、その人らしい快適な生活を送れる。

# 中期目標

- ◇歯や口に関する正しい知識が広まり、日頃から家族みんなで手入れが適切に行える。
- ◇むし歯や歯周病になりにくい生活習慣が身につく。
- ◇歯科のイメージが改善し、自分の歯と口に関心がもてる。



ライフ ステージ	現状と課題	保健行動の目標	具体的な対策
乳幼児期	◆むし歯がない子の割合が県平均に 比べて低い。また、年齢が上がる に連れて県平均との差が大きい。 むし歯がない子の割合(H21年度) 2歳児 88.8%(県93.9%) 3歳児 53.7%(県79.7%) 5歳児 28.6%(県53.9%)	◆幼児期にむし歯のない子 が増える。	◆むし歯予防の重要性や具体的な方法(仕上げ磨きの仕方、おやつの与え方等)を保護者や祖父母へ伝える。 ◆フッ素塗布・フッ化物洗口を行う。(塗布は4歳児まで拡大) ◆3歳児健診でむし歯のない子にメダルをあげたり、歯のきれいな子を広報に掲載し、意識を高める。
	◆歯磨き習慣1日2回以上の子が少ない。 歯磨き1日2回以上(H21年度) 1歳6ヶ月児 37.0% 2歳児 63.2% 3歳児 68.6%	◆1日2回以上の歯磨きが 定着する。	◆歯磨きや仕上げ磨きの必要性を伝え、体験学習の機会をつくる。
			◆保護者・祖父母・保育園職 員等関係者の歯科保健に対
	<ul><li>◆仕上げ磨きが定着していない子がいる。</li><li>仕上げ磨きなしまたは時々の子</li><li>1歳6ヶ月児 14.8%</li><li>2歳児 5.3%</li><li>3歳児 8.6%</li></ul>	◆仕上げ磨きが定着する。	する意識が向上する。
	◆間食が多い子がいる。 1日3回以上(H20年度) 1歳6ヶ月児 27.0% 3歳児 22.0%	◆間食を1日3回以上食べている子が減る。	◆望ましい間食の内容や量を 伝えていく。

	評価	 指標		実施計画			
評価指標	2011年	目標値 (2015年)	評価方法	事 業 (対象・内容・回数等)	新・現の別	実施主体	ライフ ステージ
◆むし歯がない			歯科疾患実態調	・乳幼児健診時の歯科指導	現	住民福祉課	乳幼児期
子の割合			查	(集団・個別)		歯科衛生士	
2歳児	88.8%	90.0%		・幼児歯科健診時のフッ素	現	住民福祉課	
3歳児	53.7%	60.0%		塗布(1歳6ヶ月時から	(拡大)	歯科医師	
5歳児	28.6%	35.0%		6ヶ月毎、4歳児まで。)		歯科衛生士	
				・保育園にてフッ化物洗口	現	住民福祉課	
				(4歳児から卒園まで)		園歯科医師	
				・「歯のきれいな子」広報	新	住民福祉課	
				掲載(年1回)		総務課	
◆歯磨き1日2			幼児健診問診票	・乳児健診時、歯科衛生士	現	住民福祉課	
回以上の割合				による仕上げ磨きの指導		歯科衛生士	
1歳6ヶ月児				・保育園で園児対象に歯科	現	保育園	
2歳児	37.0%	50.0%		衛生士による歯磨き指導		歯科衛生士	
3歳児	63.2%	80.0%		・幼児歯科健診時、おやつ	現	住民福祉課	
	68.6%	80.0%		講習会時仕上げ磨き体験	(拡大)	子育て支援センター	
				学習		歯科衛生士	
				・乳幼児健診時の歯科指導	現	住民福祉課	
◆仕上げ磨きな			幼児健診問診票	(集団・個別)		歯科衛生士	
しまたは時々				・園主催の行事(参観日や	新	住民福祉課	
の子				保護者向けの講演会等)		保育園	
1歳6ヶ月児	14.8%	8.0%		での歯科衛生士による歯		歯科衛生士	
2歳児	5.3%	0%		科健康教育			
3歳児	8.6%	0%		・保育園職員への研修	新	住民福祉課	
				・保育園父母の会との連携	新	保育園	
				(啓発等)		住民福祉課	
◆間食1日3回			幼児健診食生活	・乳幼児健診での指導	現	住民福祉課	
以上食べてい			アンケート調査	・幼児健診手作りおやつ試	現	住民福祉課	
る子の割合				食会		食推・母推	
1歳6ヶ月児	27.0%	20.0%		・園のおたよりで啓発	現	保育園	
3歳児	22.0%	20.0%		・保育園父母の会との連携	新	保育園	
				(啓発等)		住民福祉課	

ライフステージ	現状と課題	保健行動の目標	具体的な対策
乳幼児期	◆よく噛まないで食べている子や噛み応えのあるものが苦手な子がいる。 よく噛まないで食べている子 保育園児3歳児以上 21.8% 噛み応えのあるものが苦手な子 保育園児3歳児以上 2.7%	◆よく噛まないで食べている子や噛み応えのあるものが苦手な子が減る。	◆よく噛むことの大切さを保護者に伝える。 ◆健診時に月齢や乳歯の生え方に合わせた離乳食や幼児食について指導する。(試食含む) ◆健診時に噛み応えのある食事やおやつを紹介する。 ◆保育園で噛み応えのある給食メニューやおやつを提供する。
学童・思春期	<ul> <li>◆12歳児1人平均むし歯数が県平均より多い。</li> <li>12歳児1人平均むし歯数(H21年度)の.84本(県0.80本)</li> <li>◆小学生の永久歯むし歯有病率が県平均に比べて高い。有病率(H21年度)小学生 20.7%(県13.5%)</li> </ul>	◆12歳児1人平均むし歯数が減少する。 ◆小学生の永久歯むし歯有病率が低下する。	◆むし歯予防の重要性や口腔ケアの具体的な方法(歯磨きの仕方やデンタルフロスの使い方等)を児童・生徒に指導する。 ◆自分の口腔の状態を認識できるよう、歯肉の状態チェック等を実施する機会をつくる。
	◆CO(要観察歯)所有者率が県平 均に比べて高い。 CO所有者率(H21年度) 小学生 22.0%(県10.4%) 中学生 41.1%(県19.2%)	◆C O 所有者率が低下す る。	◆学校でフッ化物洗口を行い、歯の資質を向上する。
	◆GO(歯周疾患要観察歯)所有者 率が県平均に比べて高い。 GO所有者率(H21年度) 小学生 13.1%(県 9.9%) 中学生 21.5%(県15.8%)	◆G O 所有者率が低下す る。	
	◆むし歯未処置歯率が県平均より高い。 未処置歯率(H21年度) 小学生 33.3%(県31.4%) 中学生 14.1%(県24.3%)	◆むし歯未処置歯率が低下する。(むし歯を放置せず治療につながる)	◆歯科健診後、CO・GO所 有者を含む治療勧告を徹底 する。

		日標値		事業	新·現		ライフ
評価指標	2011年	(2015年)	評価方法	(対象・内容・回数等)	の別	実施主体	ステージ
◆よく噛まない			健康づくりアン	・乳幼児健診での食事指導	現	住民福祉課	乳幼児期
で食べている			ケート	(試食含む)		食推・母推	
子の割合				・離乳食講習会	現	住民福祉課	
保育園3歳児						子育て支援センター	
以上	21.8%	15.0%				食推・母推	
◆噛み応えのあ				・保育園給食で噛むことを	現	保育園	
るものが苦手				意識したメニューを提供		住民福祉課	
な子の割合				(園給食との連携)			
保育園3歳児				・保育園で噛み応えのある	現	保育園	
以上	2.7%	0%		おやつを提供		住民福祉課	
				・幼児健診手作りおやつの	現	住民福祉課	
				試食		食推・母推	
				・おやつ講習会	新	住民福祉課	
						子育て支援センター	
				・保育園給食時に噛むこと	現	保育園	
				への働きかけ			
◆12歳児1人平			歯科疾患実態調	・歯科衛生士によるお口の	現	小中学校	学童・
均むし歯数	0.84本	0.80本	查	健康教室	(拡大)	教育課	思春期
				「小学校1年・3年・5年)		住民福祉課	
				中学校 1 年		歯科衛生士	
<b>→</b> 永久歯むし歯			歯科疾患実態調	(歯磨きの仕方、デンタル			
▼ホス盛もし風			查	フロスの使い方の体験学			
	20.7%	15.0%	<u> </u>	習をお口の健康教室に盛			
1,1,1	20.7 70	10.070		り込む)			
				・保健だよりでの啓発	現	小中学校	
				・歯肉の健康カードによる	現	中学校	
◆C O所有者率			歯科疾患実態調	チェック(中学校)			
	22.0%	15.0%	査	・歯垢染色剤による評価の	現	小中学校	
中学生	41.1%	30.0%		実施			
				・学校にてフッ化物洗口	小・現	小中学校	
				(小学校週1回、中学校	中・新	教育課	
◆G O所有者率			歯科疾患実態調	週1回)		住民福祉課	
小学生	13.1%	10.0%	査			学校歯科医師	
中学生	21.5%	15.0%					
◆むし歯未処置			歯科疾患実態調	・歯科健診後、タイミング	現	   小中学校	
★を			图代/大恋天忠嗣     査	よく治療勧告(保護者へ	一九	教育課	
	33.3%	25.0%		個別通知、学校歯科医と		学校歯科医師	
	14.1%	10.0%		の連携)		TAM110H	
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	17.1 /0	10.070		▼/ ( <del>**</del> 175/			

ライフステージ	現状と課題	保健行動の目標	具体的な対策
学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<ul> <li>◆歯磨き習慣が1日2回以下の子がいる。</li> <li>1日3回以上歯磨き実施率(H22年度)小学生 一中学生 78.8%</li> <li>◆朝・夜の歯磨きが時々や磨かない子がいる。朝の歯磨きが時々や磨かない子(H22年度)小学生 16.7%中学生 12.6%夜の歯磨きが時々や磨かない子(H22年度)小学生 21.3%中学生 19.2%</li> </ul>	◆1日3回の歯磨き習慣が 定着する。 ◆朝・夜の歯磨きが時々や 磨かない子が減少する。	<ul><li>◆給食後の歯磨きタイムを普及する。</li><li>◆歯磨き等口腔ケアの重要性を伝える。(むし歯・歯周疾患予防、口臭予防等)</li></ul>
	<ul> <li>◆よく噛まないで食べている子や噛み応えのあるものが苦手な子がいる。</li> <li>よく噛まないで食べている子(H22年度) 小学生 28.1%</li> <li>中学生 13.2%</li> <li>噛み応えのあるものが苦手な子(H22年度) 小学生 2.7%</li> <li>中学生 3.7%</li> </ul>	◆よく噛まないで食べている子や噛み応えのあるものが苦手な子が減る。 ◆よく噛むことを意識し、習慣化する。	◆よく噛むことの大切さを伝える。 ◆咀嚼能力判定テスト等により自分の咀嚼力が認識できる。 ◆歯によい食材を利用した調理実際を受ける。 ◆学校意識したメニューを提供する。

		 指標			<u> </u>		
評価指標	2011年	目標値 (2015年)	評価方法	事 業 (対象・内容・回数等)	新・現の別	実施主体	ライフ ステージ
◆1日3回以上			生活実態調査	・歯磨きタイムの設置、定	現	小中学校	学童・
歯磨き実施率			健康づくりアン	着	(拡大)		思春期
小学生		要調査	ケート	・歯科衛生士によるお口の	現	小中学校	
中学生	78.8%	85.0%		健康教室	(拡大)	教育課	
				「小学校1年・3年・5年)		住民福祉課	
◆朝の歯磨きが			生活実態調査	中学校1年			
時々や磨かな				・保健だよりでの啓発	現	小中学校	
い子				・歯の衛生週間での保健委	現	小中学校	
小学生	16.7%	10.0%		員会の取り組み(呼びか			
中学生	12.5%	10.0%		け・表彰等)			
◆夜の歯磨きが				・歯磨きカレンダーの活用	現	小学校	
時々や磨かな				(長期休業時)			
い子				・養護教諭や担任による歯	現	小中学校	
小学生	21.0%	10.0%		科健康教育			
中学生	19.2%	10.0%					
◆よく噛まない			健康づくりアン	・歯科衛生士によるお口の	現	小中学校	
で食べている			ケート	健康教室	(拡大)	教育課	
子						住民福祉課	
小学生	28.1%	20.0%				歯科衛生士	
中学生	13.2%	8.0%		・咀嚼能力判定テスト(お	新	小中学校	
◆噛み応えのあ				口の健康教室)		住民福祉課	
るものが苦手				・保健だより、給食だより	現	小中学校	
な子				での啓発			
小学生	2.7%	0%		・歯の衛生週間での保健委	現	小中学校	
中学生	3.7%	0%		員会の取り組み			
				・つきさらキッズ・キッチ	新	小学校	
				ン(H23年度関川小)		住民福祉課	
						保健所	
				・学校給食で定期的に噛む	現	小中学校	
				ことを意識したメニュー		教育課	
				を提供(学校給食との連			
				携)			

ライフ ステージ	現状と課題	保健行動の目標	具体的な対策
青壮年期 妊産婦	◆定期的に歯科健診を受診している 人が少ない。 定期的に歯科健診を受診している 人の割合(H21年度) 男性 9.3% 女性 12.4% (県 35.0%、H20年 県民栄養調査)	◆定期的に歯科健診を受診 する人が増え、自分の歯 と口に関心がもてる。	◆定期的に歯科健診を受診することの重要性を啓発する。 ◆幼児健診時に親子歯科健診を導入し、歯科健診を受ける機会をつくる。 ◆むし歯や歯周疾患が悪化しないうちに歯科医院へ受診するよう指導する。
	◆歯周疾患検診受診率が低い。 歯周疾患検診受診率(H22年度) 村 5.0% 県 7.4%(H20年 県調査)	◆歯周疾患検診を受診する 人が増え、自分の歯と口 に関心がもてる。	◆節目年の人に歯周疾患検診の助成(個人負担なし)を行い、健診の機会をつくる。 ◆歯周疾患検診対象者を拡充し、妊婦と30歳も対象にする。
	◆歯周疾患チェック (特定健診時に 唾液潜血検査実施)の受診率が低い。 健診受診対象者に対する受診率 (H22年度) 47.8%	◆歯周疾患チェックを受診 する人が増え、自分の歯 と口に関心がもてる。	◆特定健診時に無料歯周疾患 チェックを導入し、自分の 口腔の状態が認識できる。 ◆歯周疾患チェックの対象者 を拡充し、年齢制限をなく す。
	◆1日2回以上歯磨きをする人が少ない。(30~50代) 1日2回以上歯磨きする人の割合 男性 58.3% 女性 84.3% (H21年度)	◆1日2回以上の歯磨きが 習慣化する。	◆歯磨き等口腔ケア(歯間部 清掃用器具等も活用)の重 要性を伝える。 ◆歯磨き等口腔ケア(歯間部 清掃用器具等も活用)の効
	◆歯間部清掃用器具(デンタルフロス、歯間ブラシ等)を使用している人の割合が少ない。(30~50代)歯間部清掃用器具を使用している人の割合男性 29.9% 女性 52.5% (H21年度)	◆歯間部清掃用器具を使用 する人が増える。	果的で具体的な方法を指導しする。
	◆人と比較して食べる速度が速い人が多い。(30~64歳) 男性 23.5% 女性 18.9% (H22年度)	◆早食い傾向のある人が減 る。(よく噛んで食べな い人が減る。)	◆咀嚼能力判定テスト等により自分の咀嚼力が認識できる。 ◆今より10回以上多く噛むことが習慣化するよう啓発する。

評価指標 実施計画							
評価指標	2011年	目標値 (2015年)	評価方法	事 業 (対象・内容・回数等)	新・現の別	実施主体	ライフ ステージ
◆定期的に歯科 健診を受診す る人の割合 男性 女性	9.3% 12.4%	15.0% 15.0%	歯に関するアン ケート	・地区懇談会、イベント等 での啓発 ・広報にて啓発 ・幼児健診時に親子歯科健 診	現現新	住民福祉課 食推・健推 総務課 住民福祉課 住民福祉課 歯科医師	青壮年期 妊産婦
◆歯周疾患検診 受診率	5.0%	10.0%	歯周疾患検診受 診率	・歯周疾患検診(全額助成、 対象:40・45・50・55・ 60・70歳・妊婦・30歳) ・歯周疾患検診受診勧奨 (個別通知、広報、妊娠 届け時受診勧奨等)	現 (拡大) 現	住民福祉課 歯科医師会 住民福祉課 総務課	
◆歯周疾患チェック受診率	47.8%	60.0%	歯周疾患チェッ ク受診率	・特定健診時に希望者全員 に歯周疾患チェック、歯 科指導 ・歯周疾患チェックのPR	現現現	住民福祉課 歯科衛生士 住民福祉課	
◆1日2回以上 歯磨きをする 人の割合 男性 女性	58.3% 84.3%	65.0% 90.0%	歯に関するアン ケート	・地区懇談会、イベント等での啓発 ・広報にて啓発 ・歯磨きパンフレット各戸配布	現現新	住民福祉課 食推・健推 総務課 住民福祉課 住民福祉課	
◆歯間部清掃用 器具を使用し ている人の割 合 男性 女性		40.0% 60.0%	歯に関するアン ケート	・歯科医師や歯科衛生士に よる具体的口腔ケア(歯 間部清掃用器具等も活 用)指導(歯科医院、地 域)	新	住民福祉課 歯科医師会 歯科衛生士	
◆人と比較して 食べる速度が 速い人の割合 男性 女性	23.5% 18.9%	15.0% 15.0%	特定健診標準的 な質問票	・地区懇談会、イベント等での啓発(噛むことを意識したメニューや食材のPR、咀嚼能力判定テスト実施等)・広報にて啓発・食生活改善推進員、健康づ	現現新	住民福祉課 食推・健推 総務課 住民福祉課	
				くり推進員との連携(研修等)		食推・健推	

ライフステージ	現状と課題	保健行動の目標	具体的な対策
青壮年期 妊産婦	◆口や歯に関して意識して行っていることは特にない人が多い。 意識して行っていることは特にない人(30~50代)の割合(H21年度) 男性 49.5% 女性 34.1% ◆8020運動について意味まで知っている人が少ない。(30~50代) 意味まで知っている人の割合 男性 26.1% 女性 45.5% (H21年度)	◆口や歯に関して意識して 行っていることは特にない人が減る。 ◆8020運動について意味まで知っている人が増える。	◆口や歯を健康に保つことの 大切さや具体的な方法、 8020運動について伝える 等口や歯に関心をもっても らう機会をつくる。 ◆地区組織等関係者(食生活 改善推進員、健康づくり推 進員等)の歯科保健に対す る意識が向上し、地域へ啓 発できるよう研修の機会を つくる。
高齢期(65歳以上)	◆70代で1日2回以上歯磨きをする人が少ない。 1日2回以上歯磨きする人(70代)の割合 男性 45.5% 女性 66.4% (H21年度)  ◆60・70代で歯間部清掃用器具(デンタルフロス、歯間ブラシ等)を使用している人の割合が少ない。歯間清掃用器具使用している人の割合の代男性 32.4% 60代男性 32.4% 60代女性 43.2% 70代男性 32.7% 70代女性 36.1% (H21年度)	◆1日2回以上歯磨きをする70代が増える。 ◆歯間部清掃用器具を使用する人が増える。	◆口腔ケアの重要性を伝える。 ◆歯磨き等口腔ケア(歯間部 清掃用器具や義歯の手入れ、口腔清掃用スポンジ等 の活用)の効果的で具体的 な方法を指導する。
	◆堅くて噛みにくい食物があったり、 飲み込みにくさがあり、毎日の食事をおいしく食べられない人がいる。 堅くて噛みにくい食物がある人の割合 60代男性 24.1% 60代女性 22.1% 70代男性 25.1% 70代女性 27.9% (H21年度) 飲み込みにくさがある人の割合 70代男性 25.1% 70代女性 27.9% (H21年度)	◆堅くて噛みにくい食物が ある人や飲み込みにくさ がある人が減る。	◆むし歯や歯周疾患が悪化しないうちに歯科医院へ受診するよう指導する。 ◆口の健康を保つ重要性を伝え、具体的な方法(口腔ケアやお口の体操)を指導する。 ◆自分の咀嚼力が認識できるよう咀嚼能力判定テストを実施する。 ◆誤嚥しないような食材の工夫を指導する。

評価指標			実施計画				
評価指標	2011年	目標値 (2015年)	評価方法	事 業 (対象・内容・回数等)	新・現の別	実施主体	ライフ ステージ
◆口や歯に関して意識して行っていることは特にない人の割合			歯に関するアン ケート	<ul><li>・地区懇談会、イベント等での啓発</li><li>・広報にて啓発</li><li>・役場職員やPTA、食生</li></ul>	現現現現	住民福祉課 食推・健推 総務課 住民福祉課 住民福祉課	青壮年期 妊産婦
男性 女性 ◆8020運 動 に ついて意味ま で知っている	49.5% 34.1%	35.0% 25.0%	歯に関するアン ケート	活改善推進員や健康づく り推進員への研修会 ・乳幼児健診での保護者の 歯の健康も含めた歯科衛 生士による集団指導	(拡大)	総務課 住民福祉課 歯科衛生士	
人の割合 男性 女性		40.0% 60.0%					
◆1日2回以上 歯磨きをする 70代の割合 男性 女性	45.5% 66.4%	60.0% 70.0%	歯に関するアン ケート	・地区懇談会、老人クラブ、やまゆり大学、地域の茶の間、イベント等での啓発 ・広報にて啓発	現 (拡大) 現	住民福祉課 地域包括技術之分一 社会福祉協議会 教育課 総務課 住民福祉課	高 齢 期 (65歳 以上)
◆歯間部清掃用 器具を使用し ている人の割 合 60代男性 60代女性 70代男性 70代女性	43.2% 32.7%	45.0% 45.0% 45.0% 45.0%	歯に関するアン ケート	・歯磨きパンフレット各戸配布 ・歯科衛生士による具体的 口腔ケア指導(歯科医院、 地域)	新新	住民福祉課 住民福祉課 歯科医師会 歯科衛生士	
◆堅くて噛みに くい食物がある人 60代男性 60代女性 70代男性 70代女性 ◆飲み込みにく さがある人 70代男性 70代女性	22.1% 25.1% 27.9%	20.0% 20.0% 20.0% 20.0% 20.0%	歯に関するアンケート	・地区懇談会、イベント等での啓発(具体的な口腔ケアの仕方、咀嚼能力判定ガムを利用したテスト実施、お口の体操普及、誤嚥しないような食材の工夫等)・広報にて啓発・歯科衛生士による具体的口腔ケア(歯間部清掃用器具等も活用)指導	現 (拡大) 現 新	住民福祉課士 推 全	

ライフステージ	現状と課題	保健行動の目標	具体的な対策
高齢期	◆20本以上自分の歯を持つ70代の人が少ない。 20本以上自分の歯を持つ70代の割合 70代男性 39.9% 70代女性 28.8% (H21年度)	◆20本以上自分の歯を持 つ70代が増える。	◆いきいき人生よい歯のコン クールのPRを行い、身近 によい歯をもつモデルが存 在することで、歯や口に関 心をもってもらう。
	◆8020運動について意味まで知っている人が少ない。 意味まで知っている人の割合 60代男性 31.1% 60代女性 42.0% 70代男性 26.8% 70代女性 24.0% (H21年度)	◆8020運動について意味 まで知っている人が増え る。	◆8020運動の啓発を行い、 8020運動に取り組む人が 増える。 ◆歯磨き、義歯の手入れ等口 腔ケアの重要性を伝える。 ◆歯磨き、義歯の手入れ等口 腔ケア(歯間部清掃用器具 等も活用)の効果的で具体 的な方法を指導する。
要介護者	│ │ <在宅要介護者>		
障害者	◆在宅要介護者の口腔ケア状況等の 実態が不明である。	◆在宅要介護者の口腔ケア 状況等の実態を把握す る。	◆歯に関するアンケートに、 介護保険サービスを利用し ているか否かの項目を入れ て調査する。 ◆介護者教室等で口腔ケアの 状況等を聞き取りする。 ◆在宅要介護者等歯科保健推 進事業による訪問歯科健診 の PR を行う。
	<二次予防事業の対象者> ◆介護予防事業における口腔機能向上プログラムを実施できていない。	◆二次予防事業における口 腔機能向上プログラムを 実施する。	◆現在実施の介護予防事業に 口腔機能向上プログラムの 内容を追加する。 ◆男しょの会やファンルーム で口腔ケアの効果的で具体 的な方法を指導する。

評価指標		 評価	 指標					
を持つ人の割合 70代男性 70代男性 70代女性 28.8% 35.0% 45.0% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 35.0% 28.8% 2	評価指標	2011年		評価方法			実施主体	
70代男性 70代女性 28.8% 35.0% (年1回) ・地区態談会、老人クラ ブ、やまゆり大学、地域 (柱民福祉課 住民福祉課 で知っている 人の割合 60代男性 60代女性 42.0% 45.0% 70代女性 24.0% 45.0% 45.0% 70代女性 24.0% 45.0% 45.0% 45.0% 70代女性 24.0% 45						現	住民福祉課	高 齢 期
************************************	合				・よい歯の高齢者広報掲載	現	総務課	
●8020運動に ついて意味まで知っている 人の割合 60代男性 60代男性 70代女性 70代女性 70代女性 70代女性 70代女性 70代女性 70代女性 24.0% 45.0% 45.0% 45.0% 45.0% 45.0% 45.0% 60形女性 70代女性 70代女性 70代女性 70代女性 70代女性 24.0% 45.0% 45.0% 45.0% 45.0% 45.0% 45.0%  ●在宅要介護者 の口腔ケアの指導(歯科医院、地域)  ●面着さパンフレット各戸配布・歯科を提供・歯科部生士 と務課 住民福祉課 歯科医師会 歯科衛生士 による具体的 口腔ケアの指導(歯科医院、地域)  ●面積を生工による具体的 口腔ケアの指導(歯科医院、地域)  ●在宅要介護者 の口腔ケアの 実態  ・広に関するアンケートに 介護保険サービスを利用しているか否かの項目を 追加 ・介護保験サービスを利用しているか否のの項目を 追加 ・介護者数室等での実態把 握 (介護者からの関き取 り等) ・訪問歯科健診のPR  ・訪問歯科健診のPR  ・訪問歯科健診のPR  ・ 本に関するアンケートに 介護保険サービスを利用しているか否かの項目を 追加 ・介護保験サービスを利用しているか否のの質目を 追加 ・介護保験サービスを利用しているか否かの項目を 追加 ・介護者数室等での実態把	70代男性	39.9%	45.0%		(年1回)		住民福祉課	
●8020運動に ついて意味まで知っている 人の割合 60代男性 60代男性 70代女性 70代女性 70代女性 70代女性 70代女性 26.8% 70代女性 70代女性 26.8% 70代女性 70代女性 26.8% 70代女性 26.8% 70代女性 70代女性 26.8% 45.0%	70代女性	28.8%	35.0%		・地区懇談会、老人クラ	現	住民福祉課	
●8020運動に ついて意味まで知っている 人の割合 60代男性 60代男性 70代女性 70ピースーの研修会 「麻猴に関するアンケートに 新生民福祉課金の経験・地域) 個科医師会協科衛生士 「大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大力・大					ブ、やまゆり大学、地域	(拡大)	地域包括支援センター	
ついて意味まで知っている 人の割合 60代男性 60代男性 60代女性 70代男性 70代女性 70月女子 70月	▲8020運動 /~			歩に関するアン	の茶の間(未実施地区の		社会福祉協議会	
で知っている 人の割合 60代男性 60代女性 70代男性 70代女性 70代女性 70代女性 24.0% 45.0%  □腔ケアの指導(歯科医 院、地域) □腔ケアの指導(歯科医 院、地域) □腔ケアの指導(歯科医 向口腔ケアの表導(歯科医 向工腔ケアの実態  □ 要調査  □ を					新規立ち上げ)、イベン		教育課	
入の割合   60代男性   31.1%   45.0%   45.0%   45.0%   45.0%   45.0%   45.0%   45.0%   70代男性   26.8%   45.0%   45				, ,	ト等での啓発		食推・健推	
60代男性 31.1% 45.0% 60代女性 42.0% 45.0% 70代男性 26.8% 45.0% 70代女性 24.0% 45.0% 70代女性 24.0% 45.0% 45.0% 70代女性 24.0% 45.					・食生活改善推進員や健康	新	地域包括支援センター	
60代女性 42.0% 45.0% 70代男性 70代女性 26.8% 45.0% 45.		31.1%	45.0%		づくり推進員、地域の茶		住民福祉課	
70代男性 70代女性 24.0% 45.					の間リーダーへの研修会		歯科衛生士	
70代女性 24.0% 45.0% ・歯磨きバンフレット各戸配布 ・歯科衛生士による具体的 口腔ケアの指導 (歯科医院、地域) 新 住民福祉課 歯科医師会 歯科衛生士					・広報にて啓発	現	総務課	
・歯磨きパンフレット各戸配布 ・歯科衛生士による具体的 口腔ケアの指導 (歯科医院、地域) 新 住民福祉課 歯科医師会 歯科衛生士							住民福祉課	
□腔ケアの指導(歯科医院、地域) 歯科医師会 歯科衛生士 要介護者 の口腔ケアの 実態 歯に関するアンケートに 介護保険サービスを利用 しているか否かの項目を 追加 ・介護者教室等での実態把 握 (介護者からの間ぎ取り等) ・訪問歯科健診の P R 新 住民福祉課 保健所 歯科医師会 コグラムの実施 ログラムの実施 回数 ・見しょの会、ファンルームで口腔ケア啓発 歯科衛生士 地域記弦速心ケー住民福祉課	7010212	2 1.0 70	10.0 70		・歯磨きパンフレット各戸配布	新	住民福祉課	
●在宅要介護者 の口腔ケアの 実態  一 要調査  歯に関するアンケートに 介護保険サービスを利用 しているか否かの項目を 追加 ・介護者教室等での実態把 握(介護者からの聞き取 り等) ・訪問歯科健診のPR  新 住民福祉課 保健所 歯科医師会  ●口腔機能向上 プログラムの 実施回数  ○回 3回/年 回数  ・口腔機能向上プログラム ・別しよの会、ファンルー ムで口腔ケア啓発  ・関しよの会、ファンルー が適料の会 ・別しよの会、ファンルー が適料の会 を対しているが否かの項目を 追加 ・介護者教室等での実態把 が対しているが否がの関き取 はないを表現となった を使所 歯科医師会 ・コート がはいいを表現となった があると ・別しよの会、ファンルー が認いを表現となった を対しているが否がの項目を 追加 ・力性機能向上プログラム 新 はないを表現となった がつみ注 を対しているが否がの項目を 追加 ・力性機能向上プログラム 新 はないを表現となった がつみ注 を対しているが否がの項目を 追加 ・力性機能向上プログラム があれているが否がの項目を 追加 ・力能能を表現となった を持つに対しているが否がの項目を にはいるが表現となった を持つに対しているが否がの項目を にはいるが表現となった を持つに対しているが否がの項目を にはいるが表現となった を持つに対しているが否がの項目を にはいるが表現となった を持つに対しているが否がの項目を にはいるが表現となった を持つに対しているが否がの項目を にはいるが表現となった を持つに対しているが否がの項目を にはいるが表現とない。 を持つによる対しに対しているが否がの項目を にはいるが表現となった を持つによるが表現となった を持つによるが表現となった を持つによるが表現となった を持つによるが表現とない。 またいのでは、表現を表現となった を持つによるが表現とない。 またいのでは、表現を表現とない。 ・ のはいるにはいるにはいるにはいるにはいるが表現とない。 ・ のはいるにはいるにはいるにはいるにはいるにはいるにはいるにはいるにはいるにはいるに					・歯科衛生士による具体的	新	住民福祉課	
●在宅要介護者 の口腔ケアの 実態  - 要調査  歯に関するアンケートに 介護保険サービスを利用 しているか否かの項目を 追加 ・介護者教室等での実態把 握(介護者からの聞き取 り等) ・訪問歯科健診のPR  新 住民福祉課 保健所 歯科医師会  - 口腔機能向上 プログラムの 実施回数  - ロ腔 の回 3回/年 回数 - ・口腔機能向上プログラム ・ の回 3回/年 の口腔がア啓発 - ・口腔を発					口腔ケアの指導(歯科医		歯科医師会	
◆在宅要介護者 の口腔ケアの 実態  - 要調査  - 要調査  - ・歯に関するアンケートに 介護保険サービスを利用 しているか否かの項目を 追加 ・介護者教室等での実態把 握 (介護者からの聞き取 り等) ・訪問歯科健診のPR  新 住民福祉課 保健所 歯科医師会  - □腔機能向上 プログラムの 実施回数  - □腔機能向上プログラム アンケートに 介護保険サービスを利用 しているか否かの項目を 追加 ・ 介護者教室等での実態把 類 保住民福祉課 保健所 歯科医師会  - □腔機能向上プログラムの実施 - □腔機能向上プログラム アンルー ムで口腔ケア啓発  ・ 男しょの会、ファンルー ムで口腔ケア啓発  歯科衛生士 域域窓核張むシー 住民福祉課					院、地域)		歯科衛生士	
の口腔ケアの 実態								要介護者
実態	◆在宅要介護者			歯に関するアン	・歯に関するアンケートに	新	住民福祉課	障害者
追加 ・介護者教室等での実態把 握(介護者からの聞き取 り等) ・訪問歯科健診のPR 新住民福祉課 保健所 歯科医師会  ○□腔機能向上プログラムの 実施回数  ○回 3回/年 回数 ・男しょの会、ファンルー ムで口腔ケア啓発 ・対応技術セクー 地域泡液気機セクー 地域泡液気機セクー もでつみ荘 ・場しよの会、ファンルー ムで口腔ケア啓発	の口腔ケアの			ケート	介護保険サービスを利用			
・介護者教室等での実態把握(介護者からの聞き取り等)・訪問歯科健診のPR 新住民福祉課保健所歯科医師会  ◆口腔機能向上プログラムの実施である。  → ログラムの実施の変施の変施の変換を使用である。  ・ 口腔機能向上プログラムの変換を変換を使用である。 ・ の回数・ 男しょの会、ファンルームで口腔ケア啓発 歯科衛生士地域を抵援セクー 住民福祉課	実態	_	要調査		しているか否かの項目を			
握(介護者からの聞き取り等) ・訪問歯科健診のPR 新 住民福祉課保健所 歯科医師会  ◆口腔機能向上 プログラムの 実施回数 0回 3回/年 回数  ・ 用しょの会、ファンルームで口腔ケア啓発 歯科衛生士 地域2話を援むター はて口腔ケア啓発					追加			
り等) ・訪問歯科健診のPR 新 住民福祉課 保健所 歯科医師会  → □腔機能向上プログラム 新 地域泡括技能セクー むつみ荘  ・ 四数  ・ 男しょの会、ファンルー ムで口腔ケア啓発  が域2括援セクー はつみ注					・介護者教室等での実態把	新	地域包括支援センター	
・訪問歯科健診のPR 新 住民福祉課保健所 歯科医師会  ◆口腔機能向上 プログラムの 実施回数  ○回 3回/年 回数  ・ 別しょの会、ファンルームで口腔ケア啓発  ・ 訪問歯科健診のPR 新 住民福祉課保健所 歯科医師会  ・ 口腔機能向上プログラム 新 地域記括援センター むつみ荘  ・ 男しょの会、ファンルー 新 歯科衛生士 地域記括援センター 住民福祉課					握(介護者からの聞き取		住民福祉課	
◆口腔機能向上 プログラムの 実施回数 0回 3回/年 回数 ・					り等)			
●□腔機能向上 プログラムの 実施回数 0回 3回/年 回数 ・ 用しょの会、ファンルー 新 歯科衛生士 地域包括支援センター むつみ荘 ・ 期しょの会、ファンルー 新 歯科衛生士 地域包括支援センター 住民福祉課					・訪問歯科健診のPR	新	住民福祉課	
<ul> <li>◆口腔機能向上プログラムの実施 フログラムの実施 実施回数</li> <li>○回 3回/年 回数</li> <li>・用しょの会、ファンルームで口腔ケア啓発</li> <li>・期しょの会、ファンルームで口腔ケア啓発</li> </ul>							保健所	
プログラムの 実施回数 0回 3回/年 回数 ・男しょの会、ファンルー 新 歯科衛生士 ムで口腔ケア啓発 地域包括援センター 住民福祉課							歯科医師会	
プログラムの 実施回数 0回 3回/年 回数 ・男しょの会、ファンルー 新 歯科衛生士 ムで口腔ケア啓発 地域包括援センター 住民福祉課								
実施回数 0回 3回/年 回数	◆□腔機能向上			  口腔機能向上プ	・口腔機能向上プログラム	新	   地域包括支援センター	
・男しょの会、ファンルー       新 歯科衛生士         ムで口腔ケア啓発       地域包括支援センター         住民福祉課	プログラムの			ログラムの実施			むつみ荘	
ムで口腔ケア啓発 地域包括支援センター 住民福祉課	実施回数	0回	3回/年	回数				
ムで口腔ケア啓発 地域包括支援センター 住民福祉課					・男しょの会、ファンルー	新	歯科衛生士	
住民福祉課								
L 27.#								
							むつみ荘	

ライフ ステージ	現状と課題	保健行動の目標	具体的な対策
要介護者障害者	<障害者> ◆障害者の口腔ケア状況等の実態が不明である。 ◆地域活動支援センターさくら工房では歯科健診を年1回実施している。 (心身障害者(児)歯科保健推進事業の活用)	◆障害者の口腔ケア状況等の実態を把握する。 ◆障害者が適切な口腔ケアを実践できる。	◆歯に関するアンケートに、障害者手帳の有無の項目を入れて調査する。 ◆さくら工房、障害者団体(三気の会、機能訓練等)で口腔ケアの効果的で具体的な方法を指導する。 ◆障害担当と連携し、口腔ケアの状況等の聞き取りやアンケートを実施する。
	<介護サービス事業所> ◆村内介護サービス事業所等で食前のお口の体操(嚥下体操)の実施状況が、7施設中5施設で行われている。 (H22年度介護サービス事業所におけるアンケート結果) ◆口腔機能維持管理加算を実施している施設は1施設である。(H22年度)	◆村内介護サービス事業所 の全てでお口の体操(嚥 下体操)が実施される。	◆介護サービス事業所へお口の体操(嚥下体操)や口腔ケアの知識を普及し、職員の口腔機能に関する意識を向上させるとともにスキルアップを図る。
	◆在宅要介護者等歯科保健推進事業 による口腔ケア実地研修を実施し ている施設は2施設である。(H 21年度)	◆在宅要介護者等歯科保健 推進事業による口腔ケア 実地研修を実施している 施設が増える。	

	評価	 指標		実施計画	<u> </u>		
評価指標	2011年	目標値 (2015年)	評価方法	事 業 (対象・内容・回数等)	新・現の別	実施主体	ライフ ステージ
◆障害者の口腔 ケアの実態	_	要調査	歯に関するアン ケート	・歯に関するアンケートに、障害者手帳の有無の	新	住民福祉課	要介護者障害者
				項目を追加。 ・さくら工房、障害者団体 (三気の会、機能訓練等) への歯科健康教育(口腔	新	住民福祉課 歯科衛生士	
				ケアの具体的方法等) ・障害者の口腔ケアの実施 把握のための障害者や介 護者へ聞き取りやアンケ ートを実施。	新	住民福祉課	
				・歯科衛生士による在宅個 別訪問歯科指導(障害 者・家族)	新	住民福祉課 歯科衛生士	
◆お口の体操実 施介護サービ ス事業所	5施設	6施設	介護サービス事 業所への歯科保 健事業に関する	・職員への口腔ケアの研修	新	介護サービ ス事業所等 歯科衛生士	
			アンケート	・地域ケア会議で介護サー ビス事業所職員へ在宅要 介護者等歯科保健推進事 業のPR(口腔ケア実地 研修・訪問歯科健診) ・介護サービス事業所にお	新	地域包括支援センター保健所住民福祉課地域包括支援センター	
◆口腔ケア実地 研修実施施設 数	2施設	3施設		ける食前のお口の体操 (嚥下体操)、食後の歯磨 きの実施を勧奨 ・口腔機能維持管理加算実 施施設の実施状況調査・ 報告	新	住民福祉課介護サービス事業所を対象を表現した。	
				・地域ケア会議で情報交換の実施	新	歯科医師 歯科衛生士 地域を括援センター 介護サービ ス事業所 住民福祉課	

# 関川村歯科保健計画 年次計画

◎施策展開(継続のものは平成27年度 まで内容を見直しつつ継続実施予定)

年度	乳幼児期		学童期・思春期		青壮年期・妊産婦	
平成23年度	・7~8ヶ月児健診時集団歯科健康教育 (産婦向けの内容を加える)	継続	・小学校:小1・3・5学年 へのお口の健康教室	拡大	・歯周疾患検診(40・45・ 50・55・60・70歳・妊婦)	拡大
	・10~11ヶ月児健診時個別歯科指導 ・1歳6ヶ月児・3歳児歯科健診フッ素 塗布・個別歯科指導	継続継続	・中学校:中1学年へのお口 の健康教室(口臭エチケ ット・デンタルフロス・	新規	・歯周疾患チェック(健診 受診者で希望者全員・受 診勧奨実施)	拡大
	・幼児歯科健診フッ素塗布(2歳児・2 歳6ヶ月児・3歳6ヶ月児)・個別歯 科指導(2歳児)	継続新規	喫煙の内容も加える) ・小中学校歯科健診・治療勧 告の徹底	継続	・イベントにあわせて啓発 ・広報での啓発(歯の衛生 週間等年2回位)	拡大継続
	<ul><li>・3歳児健診時に歯磨きカレンダー配布・ 活用啓発</li><li>・各保育園歯科健診・その後の治療勧告、 歯科健康教育(保育参観時等を利用して)</li></ul>	強化	<ul><li>・小学校:フッ化物洗口</li><li>・小学校:つきさらキッズキッチンにて歯に良い食材のPR(小4)</li></ul>	継続単年	・地区懇談会での啓発(実 施地区を増やす)	拡大
	・各保育園:フッ化物洗口 ・<子育て支援センター事業>おやつ講 習会時集団歯科指導	継続新規	・小中学校:担任・養護教 諭・保健委員による歯科 健康教育	継続		
平成24年度	・(乳幼児健診)治療勧告の徹底 ・保育園給食との連携(噛むことを意識 した給食おやつメニューの提供) ・保育園職員研修 ・幼児歯科健診時4歳児に対して歯科健 診・フッ素塗布	強化 強化 新規	・小中学校:歯磨きの習慣 化の徹底・咀嚼判定テス トの導入	強化	・役場職員、健推・食推・ 母推等への研修	新規
平成25年度	・「歯のきれいな子」広報掲載(顔写真 等年1回)	新規	・中学校:フッ化物洗口実施に向けてのPTA説明会(PTA総会)・学校給食との連携(メニュー)	新規強化	・村内事業所への研修や PR	新規
平成26年度	・保育園父母の会との連携(父母の会事業での啓発)	新規	・中学校:フッ化物洗口開 始	新規	・歯周疾患検診30歳実施 ・幼児健診時に保護者の歯 科健診実施	拡大新規
平成27年度	・評価のための園児保護者アンケート ・評価のための乳幼児保護者アンケート		・評価のための小中学校保 護者アンケート ・評価のための小中学生ア ンケート		・評価のための住民アンケ ート	

年度	高齢期		要介護者・障害者	
平成23年度	・老人クラブへの歯科健康教育(祖父母の立場としての指導・お口の体操・歯間清掃用器具や歯磨き・義歯の手入れの習慣の啓発)・歯周疾患チェックの実施・歯周疾患検診(60・70歳)のPR・地域の茶の間未実施地区での新規立ち上げ(介護予防の内容をシリーズ化して実施)	新規拡大化新規	・県在宅要介護者等歯科保健推進事業のPR (作業所・介護事業所) ・地域ケア会議等で介護事業所職員・作業所職 員への研修 ・二次予防事業における口腔機能向上プログラムの実施(男しょの会・ファンルーム) ・障害者の口腔状況及び歯科保健ニーズアンケート調査	新規新規新規
平成24年度	・地域の茶の間リーダー研修での歯科健康教育 ・食推・健推への研修(連携) ・いきいき人生よい歯のコンクール PR	新規 新規 強化	・食前のお口の体操や食後の歯磨き徹底 ・口腔機能維持管理実施施設の状況確認・報告 ・介護家族より在宅要介護者の口腔状況及び歯 科保健ニーズの聞き取り	強化 新規 新規
平成25年度	<ul><li>・「歯のいい高齢者」広報掲載(顔写真等年1 回位)</li><li>・咀嚼能力判定試験の実施(地域の茶の間・老 人クラブ等)</li></ul>	新規新規	・障害者の会 (三気の会・機能訓練・さくら工 房等)・介護家族会への歯科健康教育	強化
平成26年度	・やまゆり大学での研修	強化	・歯科衛生士による在宅個別訪問歯科指導 (障害者、在宅要介護者及び家族)	新規
平成27年度	・評価のためのアンケート		・評価のためのアンケート(要介護者・障害者 の区分を加える)	

# 関川村歯科保健計画推進体制図

# <村民のみなさんにお願いしたいこと>

- ・歯や口の健康を保つ行動を自ら実践する (セルフケアの実施)
- ・自分の口にあった歯ブラシや歯間部清掃用器具を使用し1日2回以上歯を磨く。
- ・むし歯の原因となる甘味食品を控え、栄養バランスのとれた食事をよく噛んで食べる。
- ・自分にあったかかりつけ医をみつけ、定期的に歯科健診やアドバイスを受ける。
- ・村や関係団体が行う健康イベントや歯科健診等に積極的に参加する。
- ・口腔ケアの大切さを理解し、日頃から自分や家族の歯や口の関心を高める(特に 要介護者や障害者の歯や口の異常に気付く)。

# <各保育園・小中学校にお願いしたいこと>

- ・フッ化物洗口の実施
- ・歯磨きタイムの確保
- ・定期歯科健診後の受診勧奨の徹底
- ・歯科健康教育の実施(むし歯・歯周疾患・望ましい 生活習慣)
- ・職員等の理解の向上
- ・保護者・祖父母への啓発

# 村民一人ひとりが生涯、歯と口の健康を保ち、その人らしい快適な生活が送れる。

それぞれが役割を果たしながら柔軟に連携 していける体制づくり

### <関川村役場が実施すること>

- ・歯科医師会等関係者との連携体制の構築
- ・歯科保健計画の策定、推進
- ・計画の評価とフィードバック
- 各種歯科健診の実施
- 各種歯科健康教育の実施
- ・ホームページや広報等による啓発
- ・健康づくり推進員、食生活改善推進員等の資質向上
- 情報収集と提供
- ・歯科等の健康イベントの開催
- ・介護予防事業(口腔機能向上プログラム)の実施

# <関係団体にお願いしたいこと>

- ・歯科医師会による村への技術支援の強化
- ・歯科医院による歯周疾患検診の実施
- ・歯科医院による予防措置、専門的指導
- ・県、保健所による村への広域的な、専門的な見地からの情報 提供や助言
- ・健康づくり推進員、食生活改善推進員等による食習慣や生活 習慣の啓発・健康教育の実施

# そのために重要なのは……

☆村民を主体にした計画の推進及び関係機関 との連携の強化

☆歯や口の健康づくりから全身の健康づくり へ(健康せきかわ21との連動)

☆セルフケア能力の向上

☆家族・地域で支えあえる関係づくり

# <介護サービス事業所にお願いしたいこと>

- ・入所者、通所者の口腔ケアの実施
- ・口腔機能向上サービスの実施
- ・口腔ケアに対する職員の資質向上
- ・介護家族への支援
- ・村、歯科関係者等との連携の構築

# <各職場にお願いしたいこと>

- ・村、歯科関係者との連携体制の構築
- ・広報等を活用した啓発
- ・職員への研修

# 「関川村歯科保健計画」を みなさんで取り組んでいきませんか?

# 歯や口が健康だとどんな生活が送れるのでしょう?

- ●食べ物の味もよくわかるので食べ物がおいしくなります。
  - よく噛めるようになる と**バランスよく**食べられ、消化吸収もよくなる ので体調もよくなります。
  - メタボ予防・解消に つながります。
- だ液には細菌などを殺菌する作用があります。お口の中の細菌を減らして肺炎などの感染症を予防します。



● お口の臭いを防ぎ、されやかな息はエチケットの第一歩となります。 お口がきれいだと気持ちもすっきり、素敵な笑顔で何歳になってもおでかけしたくなります。

# 快適な生活



というととは…

「子どもの頃からの 歯みがきや生活習慣」がやっぱり大切です。

関制的ななさかいっしょほどはしょうことは、「横く強と未来」を目指しましょうこと

# 関川村のみなさんの歯や口は…-

- 2歳くらいからむし歯のある子が増えてきて、**3歳児では約50%の子がむし歯をもっています。**それは県内でワースト1になっています。
- ●歯磨きを1日2回しない子どもや大人もまだまだ多いです。
- ●歯が痛くなる前に、定期的に**歯の健診を受けている大人は10%くらいで少ない**です。
- ●60歳をこえると**歯が20本ない**方が20%くらいいます。



関川村のみなさんの歯や口の健康を守るための計画を作りました。



# みなさんに取り組みをお願いしたいこと

- ●自分のお口や歯に関心をもち、**毎日2回以上は歯みがき**をしましょう。
- **歯ブラシや歯間部清掃用器具 (デンタルフロス・歯間ブラシなど) を使って**、歯や歯ぐき・入れ歯のお手入れをしましょう。
- ●むし歯予防のため甘いものを控え、噛みごたえのある食べ物を**しっか り噛んで**食べましょう。
- ●かかりつけの歯医者さんをみつけ、**定期的に歯の健診**やアドバイスを受けましょう。
- ◆村や地域の健診や健康イベントに参加しましょう。
- ●介護が必要な人や障害のある人の歯や口に異常がないか、**周りの人が気付いてあげましょう**。 (食事の時にむせる、ぐらぐらする歯がある、お口の臭いが気になるなど)



お問合せ先:関川村役場 住民福祉課 健康介護班 TEL 64-1472

# 第3章 資 料 編



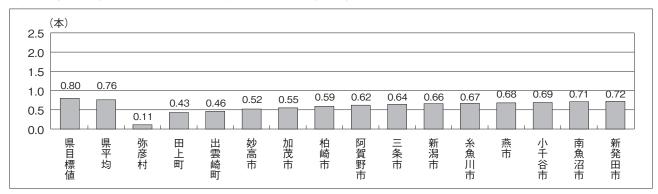
# 資 料 編

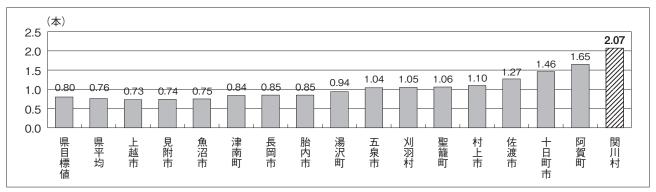
1	乳	.幼児期、学童・思春期	
(	1)	平成21年度歯科疾患実態調査	26
		平成21年度母子保健事業報告	29
(	2)	平成21年度幼児健診問診結果	29
		平成20年度食事聞き取り調査	29
		平成22年度健康づくりアンケート	30
		平成22年度生活実態調査	33
(	3)	養護教諭へのアンケート	35
2	青	壮年期・高齢期・要介護者	
(	1)	平成21年度歯に関するアンケート	36
(	2)	平成22年度歯周疾患検診結果	45
		平成22年度歯周疾患チェック結果	45
(	3)	介護サービス事業所へのアンケート	46
3	玉	保レセプト分析	47
4	フ	ォーカスグループインタビュー	49
5	第	51回関係者協議会意見交換まとめ	53
6	第	3 回関係者協議会意見交換まとめ	55
	1		
7	討	·画策定経過	60
0	A-A	· 定委員名簿······	C1
8	朿	正安貝石涄	61

# 新潟県における関川村の状況(子ども) 〜歯科疾患実態調査結果および母子保健事業報告からの関川村の状況〜

平成21年度 市町村別3歳児一人平均むし歯数(乳歯)の比較

※県目標値:平成24年度 ※粟島浦村対象者なし



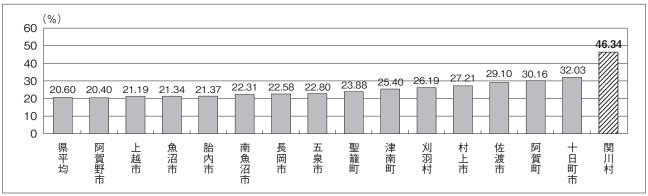


・関川村の3歳児一人平均むし歯数(乳歯)は、2.07本であり、県平均の0.76本より高い状況です。 また、新潟県29市町村中29位でした。

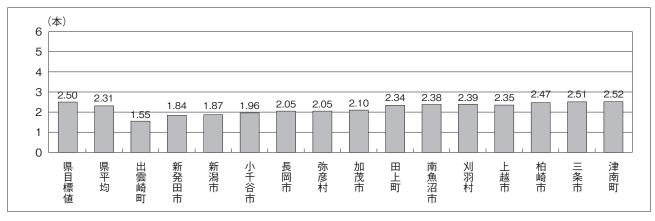
平成21年度 市町村別3歳児むし歯有病者率(乳歯)の比較

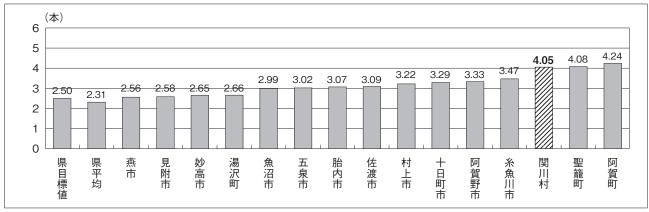
※粟島浦村対象者なし





・関川村の3歳児のむし歯有病者率(乳歯)は、46.34%であり、県平均の20.60%より高い状況です。 また、新潟県29市町村中29位でした。

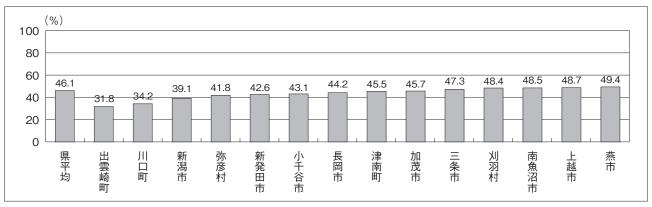


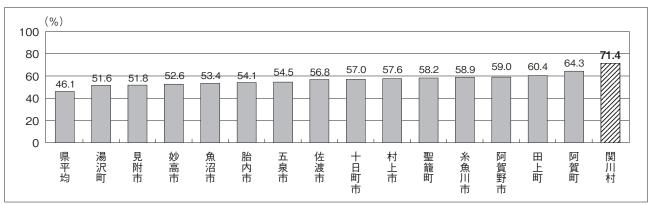


・関川村の5歳児の一人平均むし歯数(乳歯)は、4.05本であり、県平均の2.31本より高い状況です。また、新潟県内30市町村中28位でした。

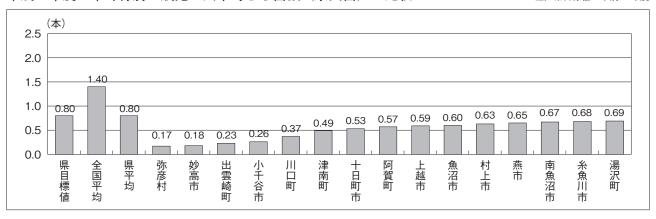
平成21年度 市町村別5歳児むし歯有病者率(乳歯)の比較

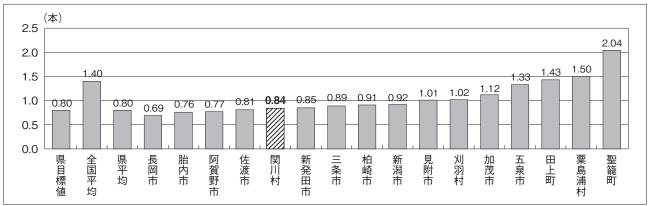
※粟島浦村:非掲載





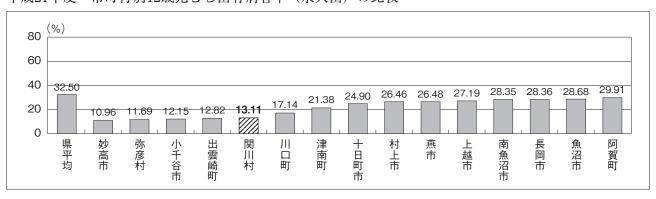
・関川村の5歳児のむし歯有病者率(乳歯)は、71.4%であり、県平均の46.1%より高い状況です。また、新潟県30市町村中30位でした。

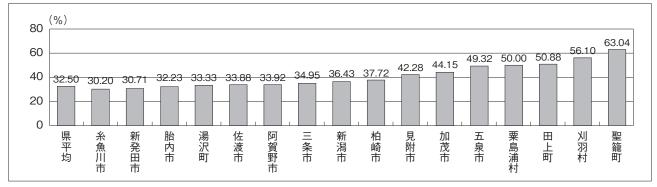




・関川村の12歳児の一人平均むし歯数(永久歯)は、0.84本であり、県平均の0.80本より高い状況です。 また、新潟県31市町村中20位でした。

平成21年度 市町村別12歳児むし歯有病者率 (永久歯) の比較





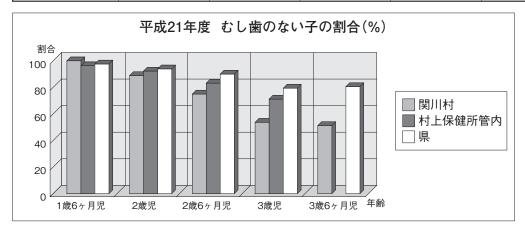
・関川村の12歳児のむし歯有病者率(永久歯)は、13.11%であり、県平均の32.50%より低い状況です。 また、新潟県31市町村中5位でした。

→関川村の子どもの一人平均むし歯数については、年齢が高くなるにつれ、県内順位はよくなっています。

# 平成21年度 母子保健事業報告より

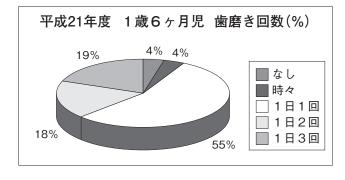
### むし歯のない者の割合(%)

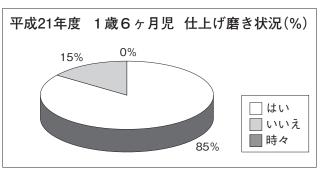
年齢	1歳6ヶ月児	2歳児	2歳6ヶ月児	3歳児	3歳6ヶ月児
関川村	100.0	88.9	75.0	53.7	51.3
村上保健所管内	96.3	92.3	83.2	71.2	
県	97.6	93.9	90.0	79.4	80.6



平成21年度 幼児健診問診票集計より

健診名	受診者	歯磨き回数					仕上げ磨き		
性形石	'文'砂有	なし	時々	1日1回	1日2回	1日3回	はい	いいえ	時々
1歳6ヶ月児健診	27	1	1	15	5	5	23	4	0
2歳児相談	19	0	0	7	9	3	18	0	1
3歳児健診	35	1	2	8	11	13	32	1	2

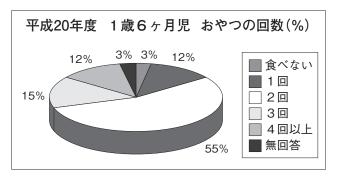




### 平成20年度 食事聞き取り調査集計より

## 1日におやつは何回食べますか?

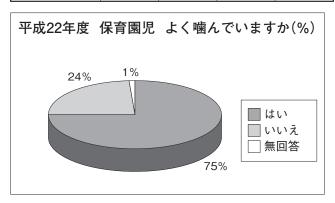
健診名	受診者			おやつ	の回数		
健砂石	'文' 砂 白	食べない	1 回	2回	3回	4回以上	無回答
1歳6ヶ月児健診	33	1	4	18	5	4	1
3歳児健診	41	1	0	30	8	1	0



# 平成22年度 健康づくりアンケート集計より

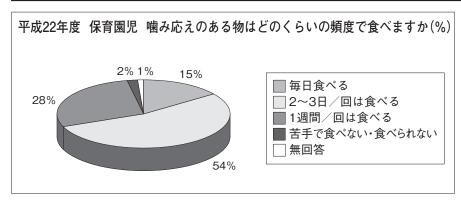
## よく噛んで食べていますか?

	人数	はい	いいえ	無回答
保育園児	141	106	34	1
内3歳児以上	110	85	24	1



## 噛み応えのある物はどのくらいの頻度で食べますか?

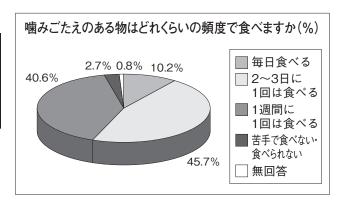
	人数	毎日食べる	2~3日/回は食べる	1週間/回は食べる	苦手で食べない・食べられない	無回答
保育園児	141	21	76	40	3	1
内3歳児以上	110	17	58	31	3	1



# 平成22年度 健康づくりアンケートより (小学校)

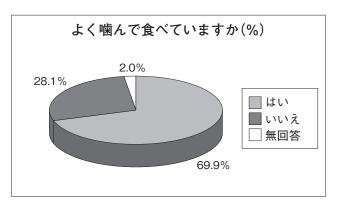
## 噛みごたえのある物はどのくらいの頻度で食べますか

毎日食べる	26人	10.2%
2~3日に1回は食べる	117人	45.7%
1週間に1回は食べる	104人	40.6%
苦手で食べない・食べられない	7人	2.7%
無回答	2人	0.8%



## よく噛んで食べていますか?

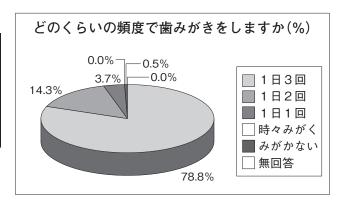
はい	179人	69.9%
いいえ	72人	28.1%
無回答	5人	2.0%



### 平成22年度 健康づくりアンケートより (中学校)

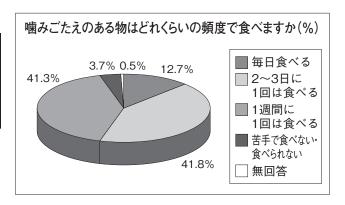
### どのくらいの頻度で歯みがきをしますか?

1日3回	149人	78.8%
1日2回	27人	14.3%
1日1回	7人	3.7%
時々みがく	人0	0.0%
みがかない	1人	0.5%
無回答	人0	0.0%



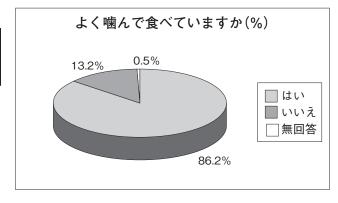
#### 噛みごたえのある物はどのくらいの頻度で食べますか

毎日食べる	24人	12.7%
2~3日に1回は食べる	79人	41.8%
1週間に1回は食べる	78人	41.3%
苦手で食べない・食べられない	7人	3.7%
無回答	1人	0.5%



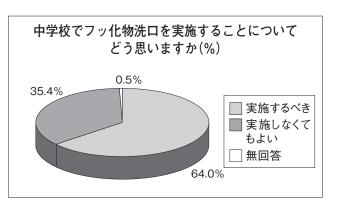
### よく噛んで食べていますか?

はい	163人	86.2%
いいえ	25人	13.2%
無回答	1人	0.5%



## 中学校でフッ化物洗口を実施することについて どう思いますか?

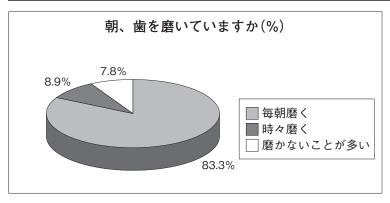
実施するべき	121人	64.0%
実施しなくてもよい	67人	35.4%
無回答	1人	0.5%



## 子どもの生活実態調査集計表 (平成22年5月 関川小学校)

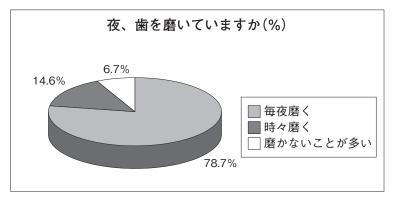
### (生活編)朝、歯を磨いていますか?

	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	合計
毎朝磨く	15.0	13.6	17.3	19.2	19.2	15.9	83.3
時々磨く	13.0	13.0	13.0	30.4	13.0	17.4	8.9
磨かないことが多い	20.0	25.0	10.0	0.0	25.0	20.0	7.8



### (生活編) 夜、歯を磨いていますか?

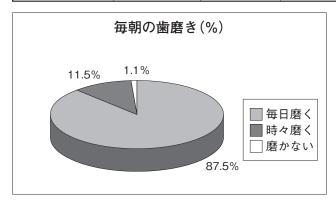
	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	合計
毎夜磨く	16.1	16.1	15.6	19.6	16.1	16.6	78.7
時々磨く	16.2	8.1	21.6	21.6	18.9	13.5	14.6
磨かないことが多い	11.8	11.8	5.9	5.9	41.2	23.5	6.7



# 生活実態等調査集計結果(平成22年6月 関川中学校)

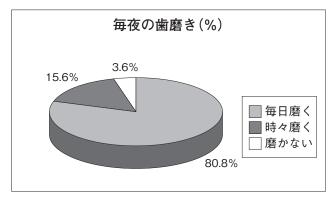
### 毎朝の歯磨き

	中学1年	中学2年	中学3年	合 計
毎日磨く	90.2	77.8	94.4	87.5
時々磨く	9.8	19.0	5.6	11.5
磨かない	0.0	3.2	0.0	1.1



### 毎夜の歯磨き

	中学1年	中学2年	中学3年	合 計
毎日磨く	78.7	77.8	85.9	80.8
時々磨く	16.4	19.0	11.3	15.6
磨かない	4.9	3.2	2.8	3.6



# 関川小学校・関川中学校における歯科保健事業内容

関川小学校							
歯科保健の取り組み	・フッ化物洗口(毎週水曜日) ・「ほけんだより」にて学年別歯みがきポイント等掲載 ・給食後の歯みがき(各学級で歯みがきの音楽に合わせて指導) ・長期休暇等(夏休み等)に歯みがきカレンダーを配布 ・学年別の歯科保健指導 ・児童保健委員会の活動(歯の衛生週間中、低学年への給食後の歯みがき指導、給食後の歯みがきカレンダーの配布、歯みがきの仕方と呼びかけを児童朝会で発表) ・4月に歯科健診(当日欠席者は後日受診) ・治療勧告を数回実施(永久歯・COの児童には個別懇談の時に担任より保護者へ個別プリント配布)						
子どもの歯や口のことで 気になっていること	・口呼吸で(歯並びのためか)気になる児童がいる						
歯を健康に保つために 必 要 だ と 思 う こ と	<ul> <li>・噛み応えのある食べ物をゆっくりよく噛んで食べる(給食時に噛み応えのある物を取り入れている。また、感染症予防にもよいので、よく噛むことに重点を置いている)</li> <li>・食後にブラッシングをして口腔内をきれいに保つ</li> <li>・小学校は乳歯から永久歯へ生え替わる時期なので意識して指導している</li> </ul>						
歯科保健計画への要望	・特になし						
	関川中学校						
歯科保健の取り組み	<ul> <li>・4月に歯科健診(当日欠席者は後日受診)</li> <li>・6月の給食では、「歯によいメニュー」を提供</li> <li>・健診翌日に治療勧告実施(長期休暇前の保護者会で個別通知)</li> <li>・歯の衛生週間には担任が学活時に「歯肉の健康カード」をチェックし、カラーテスターで磨き残しをチェック(正しいブラッシングの指導)</li> <li>・保健委員の活動(歯の衛生週間に給食後の歯みがきの呼びかけ・クラス対抗の歯みがきアンケートの実施及び報告)</li> </ul>						
子どもの歯や口のことで 気になっていること	<ul> <li>・治療勧告後の受診率が40%程度にとどまっている。本人・保護者ともに治療の必要性の意識が低い</li> <li>・思春期になると歯肉炎が増えてくるので、正しいブラッシングが必要だが、指導の時間がなかなか確保できない</li> <li>・ごく少数ではあるが、歯みがき(朝・晩)をしていなかったり、習慣化されていない生徒も見受けられる</li> <li>・昼休みは30分あるが、歯みがきタイムは設けていない</li> </ul>						
歯を健康に保つために 必 要 だ と 思 う こ と	・自分の歯にもっと関心を持ち、健康な歯を保とうとする気持ちを持つ ・正しいブラッシングを身につけ、習慣化を図る ・バランスのとれた食生活を心がける ・思春期という時期から「口臭エチケット」という面をPRしていく方向でいる ・フッ化物洗口は現在実施していないが、今後実施するにあたり、職員や保 護者の理解を得られるよう検討が必要						
歯科保健計画への要望	・家庭や地域全体で歯科保健に関心をもつような働きかけ、連携した取り組み (例えば歯によい食生活や歯みがき習慣を家庭で行うなど) ・歯科衛生士による歯みがき指導 ・むし歯予防指導を歯科健診の直後 (自分の歯に関心を持つ時期) に行う ・歯科保健指導がまだまだ不十分であると感じている。歯科保健計画ととも に学校での取り組みをしていければ効果も違うと思う						

# 関川村「歯に関するアンケート」結果

	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
30代	603	498	82.6%	492	81.6%
40代	701	575	82.0%	568	81.0%
50代	1,000	843	84.3%	829	82.9%
60代	926	793	85.6%	771	83.3%
70代	1,046	893	85.4%	816	78.0%
総計	4,276	3,659	85.6%	3,476	81.3%

・平成22年2月実施

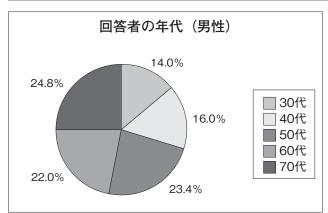
・対象者:30~79歳の全村民

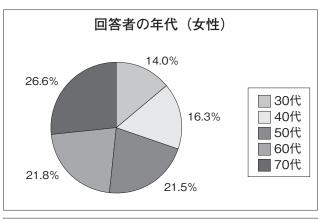
·回収率 85.6%

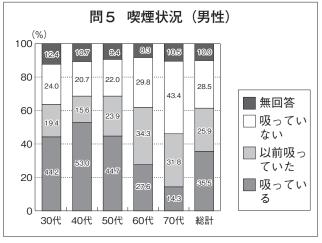
※有効回答者数

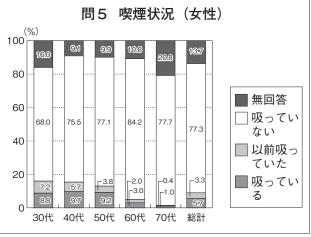
男性	全体	下関	上関	四ヶ字	霧出	七ヶ谷	九ヶ谷	湯沢	川北	女川
30代	242	57	19	20	42	12	11	7	33	39
40代	270	60	22	23	41	21	13	14	29	47
50代	436	70	30	35	77	36	38	23	55	72
60代	373	71	28	35	51	31	29	27	48	53
70代	354	71	22	22	62	24	21	20	44	66
総計	1,675	329	121	135	273	124	112	91	209	277

女性	全体	下関	上関	四ヶ字	霧出	七ヶ谷	九ヶ谷	湯沢	川北	女川
30代	250	48	23	19	37	27	7	17	31	41
40代	298	60	24	23	42	16	12	23	34	62
50代	393	66	31	31	57	29	30	22	57	67
60代	398	75	36	30	67	37	24	30	39	58
70代	462	91	28	38	77	34	30	21	56	81
総計	1,801	340	142	141	280	143	103	113	217	309

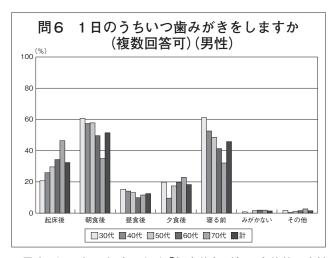


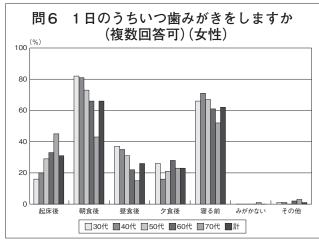




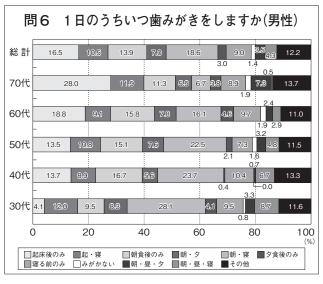


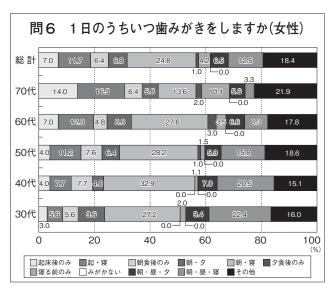
- ・男女で差がみられ、「吸っている」、「以前吸っていた」については、すべての年代において男性が高い状況でした。
- ・年代別にみると、「吸っている」は、男女とも40代が最も高く、男性53%、女性9.7%でした。
- ・「吸っていない」は、男性では70代が最も高く、43.4%、女性では60代の84.2%でした。



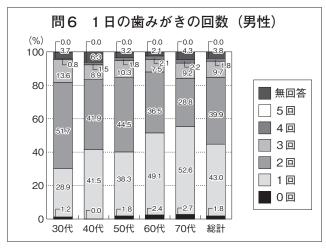


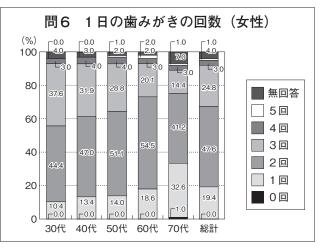
- ・男女ともほぼ同じ傾向ですが、「起床後」以外は、全体的に女性のほうがみがいている割合が高いという結果でした。
- ・男女とも「起床後にみがく」は、70代の方に多く、どちらも45%程度でした。また、「朝食後にみがく」はそれ以外の年代に多く、若い年代のほうがみがいている方の割合が高かったです。
- ・「昼食後」は、男性よりも女性のほうが多く、30~50代でそれぞれ30~40%でした。



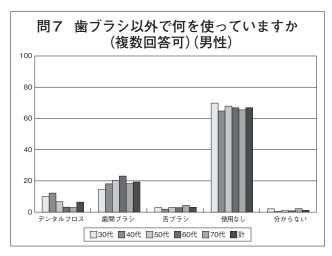


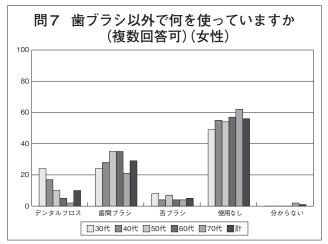
- ・30~50代については、男女とも「朝食後」と「寝る前」の2回が最も多いという結果でした。 また、70代男性は「起床後」のみが最も多く、同年代の女性は「起床後」と「寝る前」の2回が最も多かったです。
- ・「朝食後」「昼食後」「夕食後(あるいは寝る前)」の3回は、総計で男性10%、女性30%程度でした。
- ・3回みがいている方を年代別にみると、男女とも30代が最も多く、男性よりも女性のほうが多いという結果でした。



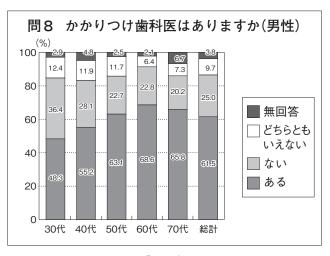


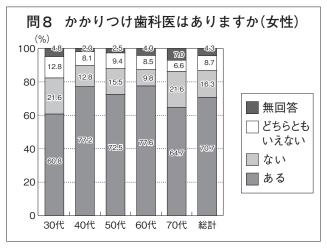
- ・男性は、30代は2回の方が約50%、70代は1回の方が50%以上であり、若い年代ほど、みがく回数が多いという結果でした。
- ・女性は、各年代共通して一日2回の方が最も多かったです。また、30代、40代については、3回の方が3割を超えていました。
- ・男女別にみると、総計で、男性は1回の方が最も多く43%、女性は2回の方で47%でした。



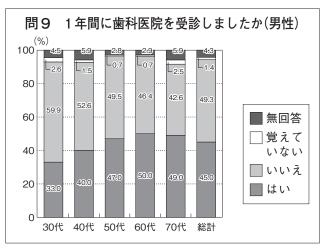


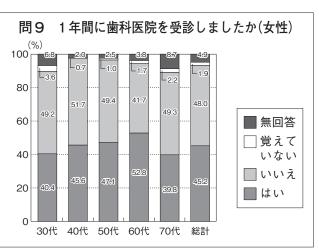
- ・男性は、総計で使用していない方が最も多く、67%でした。使用している方では、総計でデンタルフロスが7%、歯間ブラシが約20%でした。
- ・女性についても、男性と同じく、使用していない方が最も多く、56%でした。 使用している方では、総計で歯間ブラシが最も多く約30%、次にデンタルフロスで10%でした。
- ・年代別にみると、30代女性は、デンタルフロスと歯間ブラシをそれぞれ20%以上の方が使用し、 男女別では、何も使用していない方が、男性7割、女性6割と男性のほうが多かったです。



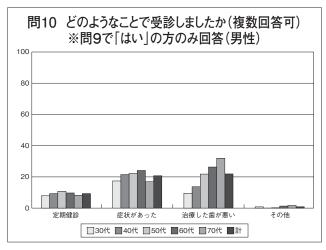


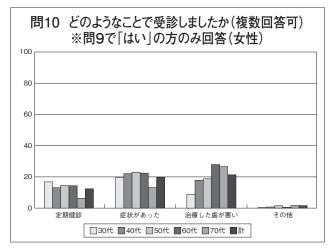
- ・30代、40代の男性は、「ある」が50%前後であり、60代が最も高く、68.6%でした。
- ・女性は、各年代の6割以上が「ある」と回答し、60代が最も高く78%程度であり、総計では70%の方が「ある」と回答しました。
- ・男性と女性を比べると、男性が総計で6割、女性が7割と女性のほうが高いことがわかりました。



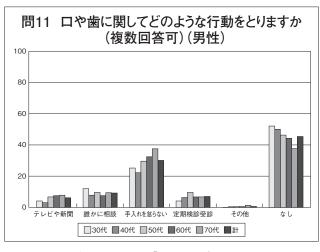


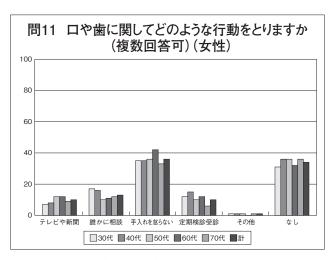
- ・男性は、「はい」では30代が最も低く33%、また、60代が最も高く50%程度でした。 この結果は、かかりつけ歯科医の有無と同様の傾向がありました。
- ・女性は、「はい」では70代が最も低く約40%、60代が最も高く50%でした。
- ・男女別にみると、「はい」は総計で男女とも45%前後であり、男女とも60代が最も高いという結果でした。



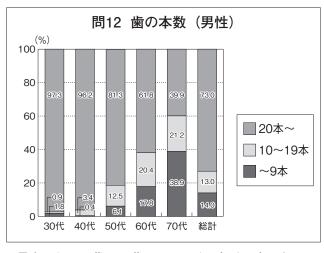


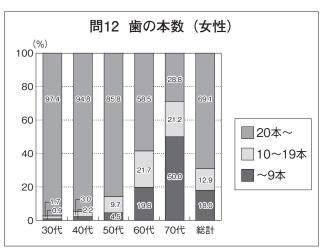
- ・男女とも、総計で最も高かったのは、「治療した歯が悪い」の20%程度であり、年代別では、男性は70代で32%、女性は60代の28%が最も多かったです。次いで、男女とも「歯や歯ぐきに症状があった」が40代、50代に多く、男女とも20%程度でした。
- ・昨年1年間に定期健診を受診した方は、男性が各年代10%前後であり、総計で9%であったのに対して、女性は年代で差があり、30代が最も高く17%、40代、50代、60代は13~14%程度であり、70代が6%と最も低く、総計で12%でした。



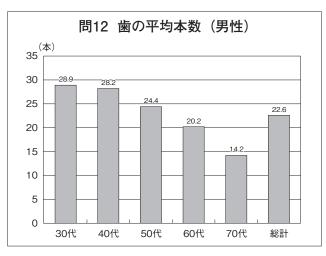


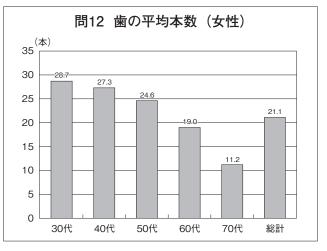
- ・男性で最も多かったのは「特になし」であり、総計で45%でした。中でも30代は最も高く、50%を超えていました。 次いで「手入れを怠らない」であり、総計で30%、中でも最も多かったのは70代で38%でした。
- ・女性は「手入れを怠らない」が平均で35%と最も多く、中でも60代は40%を超えていました。 次いで、「なし」が30%強であり、年代別に大きな差はありませんでした。
- ・男女別にみると、男性が「とくになし」が最も多いのに対して、女性は「手入れを怠らない」でした。



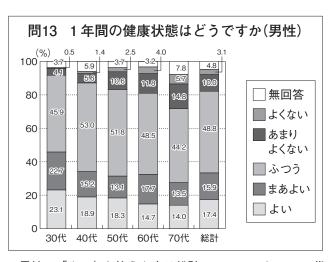


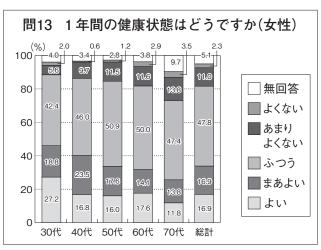
- ・男女とも、30代、40代はほとんどの方が20本以上ありました。 しかし、50代では8割、60代で6割、70代になると3~4割と年代別で差が大きくなっています。
- ・20本以上ある方について、男女別にみると、70代に差が現れ、男性が40%程度であるのに対して女性は30%弱でした。



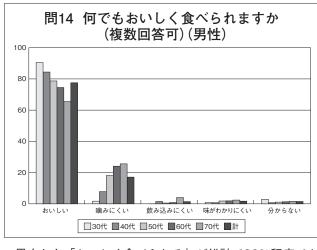


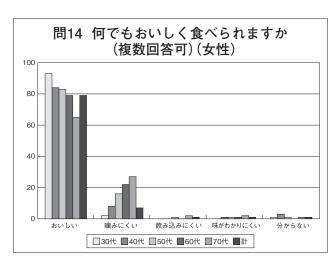
・男女別にみて、60代まではほぼ同じ傾向にありますが、70代になると、男性の方が女性よりも多く、総計でも男性が多いという結果でした。



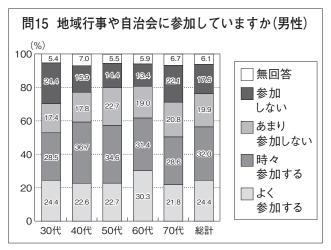


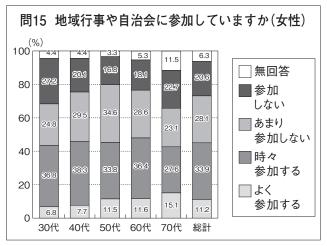
- ・男性で「よい」と答えた方は総計で17.4%であり、30代が最も多く23%でした。また、「よい」、「まあよい」、「ふつう」3つをあわせると総計で82%でした。
- ・女性で「よい」と答えた方は、総計で約17%であり、30代が最も多く27%でした。「よい」、「まあよい」、「ふつう」の3つをあわせると総計で約82%であり、男性とほぼ同じでした。
- ・健康状態については、年代では差がみられましたが、男女差はあまりありませんでした。



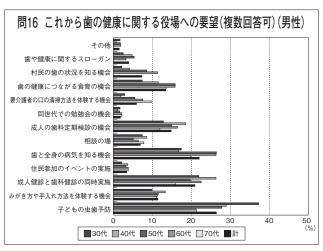


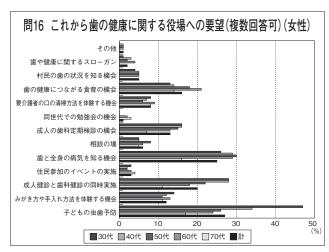
- ・男女とも「おいしく食べられる」が総計で80%程度であり、30代が一番高く、年代が高くなるにつれ割合が低くなっていました。
- ・男女とも「噛みにくい」は年代が高くなるにつれその割合も高くなり、70代が最も高く、25%程度でした。
- ・結果として、男女別の差はみられず、年代で大きく差がありました。



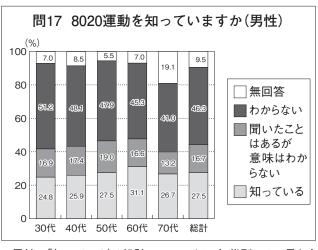


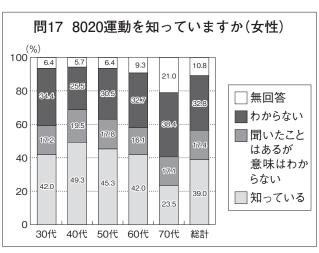
- ・男性について、「よく参加する」は、60代が最も多く、30%でした。続いて30代が多く、24%でした。また、「時々参加する」は、40代、50代、60代の各年代で30%を超えていました。対して「参加しない」は30代が最も多く、24%でした。
- ・女性は、「よく参加する」が、70代で最も多く15%であり、年代が若くなるにつれ低くなっていました。「参加しない」は、30代が最も多く、27%でした。
- ・男女を比べると、すべての年代で、男性のほうが「よく参加する」と答えた方が多いという結果でした。





- ・最も多かったのは、男女とも30代で「子どものむし歯予防」を行うとよいと回答した方であり、男性は37%、女性は47%でした。
- ・続いて多かったのが、男女とも「歯と関係のある全身的な病気について知る機会があるとよい」であり、とくに50代女性が多く30%でした。
- ・3番目に多かったのは、男女とも「成人の健診と一緒に歯の健診も行うとよい」であり、30代、40代の働き盛り世代が多いという結果でした。





- ・男性で「知っている」は総計で27%であり、年代別にみて最も多かったのは、60代の31%でした。 また、総計では「わからない」が最も多く46%であり、年代別では30代の約50%でした。
- ・女性は「知っている」が総計で最も多く、39%であり、年代別では40代の約50%でした。
- ・男女別にみると、男性が総計で「わからない」が最も多かったのに対し、女性は「知っている」であり、男女に差がみられました。

# 関川村「歯に関するアンケート」要望

# 【男性】

年代	
30代	・税金で医療費を補助する ・学校給食から砂糖と牛乳をなくしてほしい。砂糖や牛乳の有害性を周知してほしい。 ・水道水にフッ素を入れる
40代	・歯磨き粉等フッ素入りのものの安全性を知る機会があるとよい
50代	・自分のことは、自分で責任を持って行うようにするべき。役場への要望はない。 ・個人で予防したほうがよい ・休日が日曜日だけなので、日曜日でもやっている歯科医院があればよいと思う ・無料で歯科健診を行う
60代	・健康保険証がなく、歯科健診等受診しにくい ・歯ブラシを使用すると歯が減っていく気がするが、理由を教えてほしい ・最近糖尿病患者が増えているので、歯周病予防についても徹底したほうがよい ・電動歯ブラシを使用して、歯や歯ぐきがとても良くなった。電動歯ブラシの使用を勧めるべき。 ・現在、村外の歯科医院に定期的(6ヶ月~1年)に受診しているが、今後は村内の歯科医院受診を考えている ・65歳以上を対象とした関川村独自の健康指針を発信してほしい
70代	・目が悪いため、歯科医の往診を希望する ・K歯科医院のI先生にまた来ていただきたい ・特定健診の項目に歯科健診項目を入れてほしい(H22より実施)
80代	
不詳	

# 【女性】

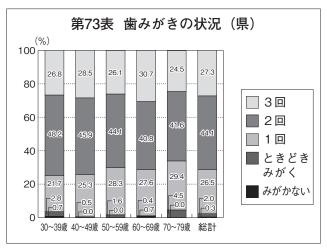
年代	
30代	・自分に合う歯科医院を探すにあたり、治療内容(矯正・口腔外科小児科)等を表示された一覧が あるとよい
40代	<ul> <li>・高齢者向けとして歯科医に往診してほしい(診療所での実施もよいと思う)</li> <li>・食事の質・食べ方・おかしなど口にするものがすべてに影響している。ホリスティックな考え方で捉えていくべき。</li> <li>多くの市販の歯磨き粉の害についても知る機会があるとよい・ライフステージに応じた予防を行うべき。特に中学生に対する学校全体の取り組みが必要。</li> <li>・高齢者など歯科医院に行けない人のために訪問歯科健診があるとよい(県事業を周知する)</li> </ul>
50代	・幼少期から歯の健康に関する教育・健診を徹底することを希望 ・インプラント手術を保険適用にしてほしい ・自分で気をつける
60代	・イベントを実施しても参加者が少ないことには意味がない。わざわざ人を集めるよりも、集まった場所で各世代に合った話をするのがよい。
70代	・健診等、広域単位で実施すると徒歩で行く方にとっては大変なので、集落センターあたりで実施 してほしい
不詳	・より多くの住民に定期健診を受けてもらうために、割引券を発行する

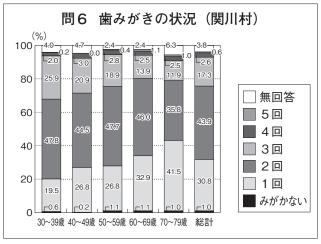
# 【不詳】

年代	
30代	
40代	
50代	
60代	
70代	・とくにない。自分で気をつけている。
不詳	・各家庭の洗面所に貼れる大きさで、歯みがきのポイントが記載してあるポスターを配布するとよい

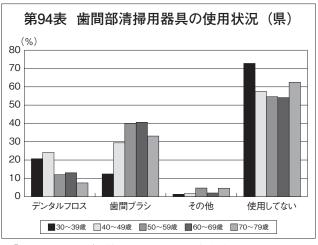
# 関川村と県との比較(成人)

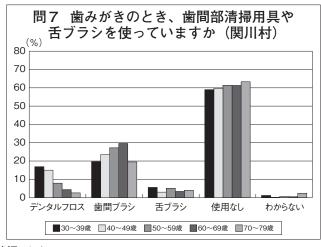
~関川村「歯に関するアンケート調査 | および平成20年度新潟県県民健康栄養調査(一部)の比較結果~



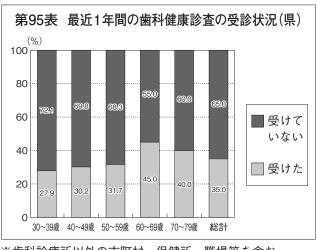


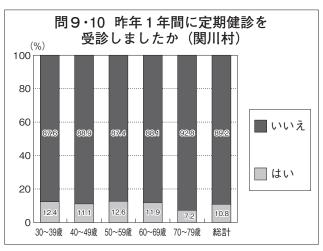
- ・1日3回(以上)みがくと回答した方は、県と関川村では、ほぼ同じ傾向でした。 しかし、60~69歳で差が現れ、県が30.7%だったのに対して、関川は、17.5%であり、関川村のほうが2倍近く低い状況でした。
- ・1日1回については、70~79歳において差がみられ、県が29.4%であったのに対して、関川村は41.5%であり、関川村のほうが高い 状況でした。



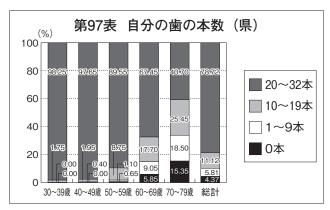


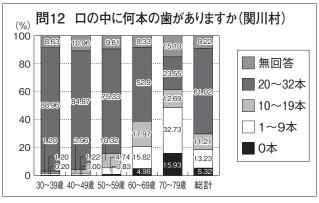
- ・「デンタルフロス」を使用している方は、各年代で県のほうが高い状況でした。
- ・「歯間ブラシ」を使用している方は、30~39歳では、県が10%強であるのに対し、関川村は20%程度であり、関川村が高い状況でした。 しかし、70~79歳では、県が30%強であるのに対して、関川村は20%程度であり、関川村が低い状況でした。
- ・「使用していない」は、30~39歳で差がみられ、県が70%程度であるのに対して、関川村は60%程度であり、関川村が低い状況でした。



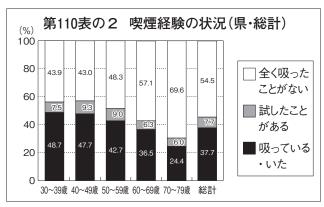


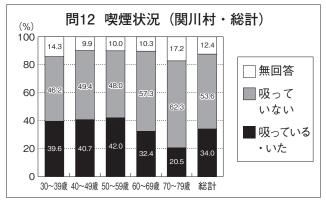
- ※歯科診療所以外の市町村、保健所、職場等を含む。
- ・各年代とも、県よりも関川村のほうが低い状況です。
- ・特に、関川村の70~79歳については、7.2%と最も低い結果でした。



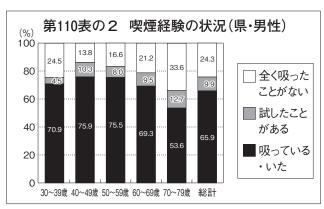


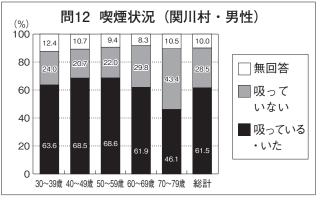
- ・20~32本については、70~79歳で差がみられ、県が40%程度であるのに対し、関川村では23%程度であり、関川村が低い状況です。
- ・1~9本についても、70~79歳で差があり、県18.5%に対して、関川村は32.7%であり、関川村のほうが高い状況です。



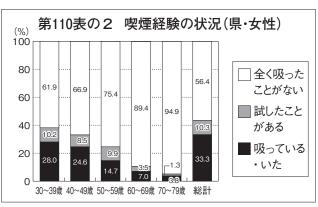


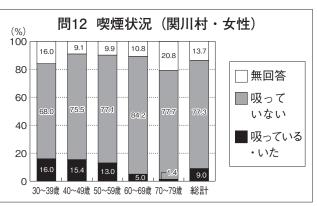
- ・「吸っている・いた」は、県では30~39歳が最も高いのに対して、関川村は50~59歳が最も高い状況でした。
- ・「まったく吸ったことがない・吸っていない」は、県、関川村とも70~79歳が最も高く、県が約70%、関川村が62%でした。





- ・「吸っている・いた」は、県では40~49歳が最も高いのに対して、関川村は50~59歳がもっとも高い状況でした。 また、総計では、県が65.9%、関川村が61.5%であり、総計では関川村のほうが低い状況です。
- ・「まったく吸ったことがない・吸っていない」は、県、関川村とも70~79歳が最も高く、県33.6%、関川村43.4%と総計では関川村が高い状況です。





- ・「吸っている・いた」は、県、関川村ともに30~39歳が最も高く、県が28%、関川村16%であり、関川村が低い状況です。
- ・「まったく吸ったことがない・吸っていない」は、県では70~79歳が最も高く95%であり、関川村では60~69歳が最も高く、84.2%でした。

※<u>歯の手入れ</u>(歯みがきの回数(1日3回以上)、歯間部清掃用器具(デンタルフロス、歯間ブラシ)の使用状況、1年間の歯科健康診査の受診状況)については、ほとんどすべてにおいて県が高く(ただし、30代の歯みがきの回数と同年代の歯間ブラシの使用状況のみ関川村が高い)、20本以上歯を有する方の割合は、すべての年代において、県が高い状況です。しかし、喫煙の状況(吸っている、いた)についてみると、すべての年代において、県が高い状況です。

(%)

						(,0)		
	歯みがき	 きの回数	歯間部清掃用器具の使用状況					
	(3回	以上)	デンタリ	レフロス	歯間ブラシ			
年代	県	関川村	県	関川村	県	関川村		
30代	26.8	28.1	20.7	16.9	12.4	19.7		
40代	28.5	23.9	24.1	15.0	29.4	23.5		
50代	26.1	22.1	12.0	7.9	39.9	27.2		
60代	30.7	17.5	13.0	4.4	40.6	29.6		
70代	24.5 15.5		7.5	2.6	33.1	19.5		
総計	27.3	21.4	15.5	9.4	31.1	23.9		

	歯科健康	表診査の	喫煙の状況		歯の本数	
	受診	状況	大压。	71/\/ <i>I</i> )L	(20本	以上)
年代	県	関川村	県	関川村	県	関川村
30代	27.9	12.4	48.7	39.6	98.3	89.0
40代	30.2	11.1	47.7	40.7	97.7	84.9
50代	31.7	12.6	42.7	42.0	90.0	75.4
60代	45.0	11.9	36.5	32.4	67.5	54.1
70代	40.0	7.2	24.4	20.5	40.7	27.6
総計	35.0	11.0	40.0	35.0	78.8	66.2

※歯の本数は、県現状値とは調査方法が異なる

### 歯周疾患検診の受診状況

※平成22年度より事業開始(対象年齢:40・45・50・55・60・70歳)

対象者数	受診者数	受診率		判定区分	} (人)
(人)	(人)	(%)	異常なし	要指導	要精検・要医療(延)
545	31(男6、女25)	5.7	4	0	38

要精検・要医療の内容(人)					
歯石除去	歯周治療	う蝕治療	補綴処置	その他	記入なし
12	11	4	2	3	6

年齢	対象者数		受診者数		受診率
— <del>11</del> 内p	<b>刈</b>		男性	女性	(%)
40歳	83	8	1	7	9.6
45歳	75	1	0	1	1.3
50歳	83	4	1	3	4.8
55歳	94	4	1	3	4.2
60歳	122	9	1	8	7.4
70歳	88	5	2	3	5.7
合計	545	31	6	25	5.7

※平成20年度 県受診率:7.4%

### 歯周疾患チェック(唾液潜血テスト)受診状況

※平成22年度より特定健診に併せて実施(対象年齢:30~59歳)

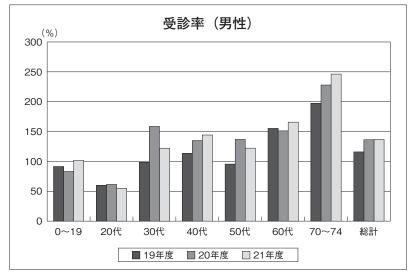
申込者数	実施者数			受診率	陰性	陽性
甲込有奴 		男性	女性	文的学		物性
311	64	30	34	20.6	9	47

# 介護サービス事業所における歯科保健事業内容

事業所名	今年度実施(予定含む)中の事業内容	対象者の現状	村への要望
介護老人保健施設則 受広苑	・夕食前のお口の体操 ・食後の口腔ケア (スタッフがチェック)	・対象者が多く、細かい チェックが難しい ・歯肉炎が多い	・入所者への定期歯科検診があればよい
ディケア関川愛広苑	・利用者全員に口腔ケア・利用者全員に昼食前に嚥下体操	・嚥下体操を自分で行え ない方には個別にスタ ッフが声掛けをしてい る	・特になし
ゆうあい	・今年度実施なく、検討中である ・H21年度在宅要介護者等歯科保健 推進事業による口腔ケア実地研修 ・昼食前のお口の体操、昼食後の歯 みがき		・特になし
ふれあいの家	・月に1回口腔チェック ・昼食前のお口の体操 ・食後の歯みがき(ブラッシング指導) ・当番の職員が利用者全員に行う	<ul><li>デイサービス利用後、 家でも口腔内をきれい にしようと意識する方 もでてきた</li><li>利用時以外全くみがか ない方もいる</li></ul>	・歯科保健計画の内容を 知りたい
垂 水 の 里	・H21年度在宅要介護者等歯科保健 推進事業による口腔ケア実地研修 ・H22年度より口腔機能維持管理加 算の利用:歯科衛生士(月1回) が職員に口腔ケアチェック・ブラ ッシングの助言(利用者3~5名 程度)、施設全体の口腔ケアマネ ジメント計画書の助言	・歯科衛生士の個別の助言は効果あり ・介護職員が口腔ケアに関わる知識・技術を取得できる	<ul> <li>・通院困難な高齢者のフォロー</li> <li>・サービスを利用していない独居のフォロー</li> <li>・受診率の低い高齢者へ訪問による検診・口腔ケアチェックなど・車いす・寝たきり者への往診回数増加</li> </ul>
グループホーム せ き か わ	・全員で昼食前のお口の体操は実施なし(個別対応:食前のお口の体操やマッサージ、食後の歯みがきの促進) ・受診勧奨、同行	・訪問歯科健診や口腔ケ ア実地研修を行う予定 であったが実施でき ず。今後利用したい。	
ハーティープラザ関川	・利用者からの訴えにより時々義歯や口腔内チェックを行う ・利用者全員で昼食前にお口の体操を実施 ・特定の利用者に対して舌や顎・口唇の運動を取り入れている ・口腔ケアの知識を講習経験ある職員から普及させ、全職員で実施	・口腔ケアが必要な特定 の利用者については顕 著な成果は出ている が、利用者全体の口腔 ケアに関する成果が見 えないので口腔ケアの 方法や支援体制、その 他情報がほしい	・病院による「嚥下能力 判定」にあたる検査を してもらえると利用者 に対してより適するケ アが可能
む つ み 荘	・昼食前のお口の体操	・歯みがきを自主的に行っている方は少ないが、義歯の手入れを行っている人もいる	・特になし

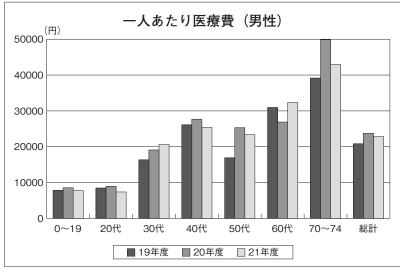
# 国民健康保険歯科診療状況

~ 関川村国保レセプトにおける年次推移 ~



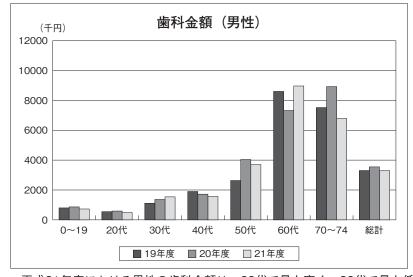
21年度男性	受診率	対県比
0~19	101.67	0.76
20代	54.99	0.38
30代	122.13	0.93
40代	144.21	0.82
50代	122.22	0.64
60代	165.73	0.57
70~74	246.20	0.69
総計	136.74	0.69

- ・平成21年度における男性の受診率は、70~74歳で最も高く、30代の若い世代では、対前年比が最も低い結果となった。
- ・平成21年度における対県比は、各世代すべてにおいて低い結果であった。



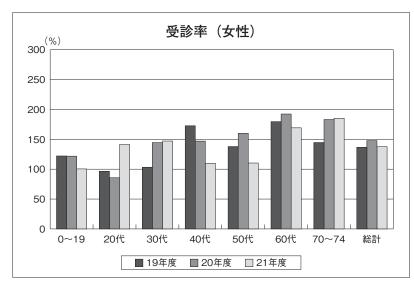
21年度男性	一人あたり医療費	対県比
0~19	7,735	0.61
20代	7,381	0.37
30代	20,604	0.91
40代	25,381	0.99
50代	23,353	0.84
60代	32,341	0.77
70~74	42,957	0.71
総計	22,822	0.71

- ・平成21年度における男性の一人あたり医療費は、70~74歳で最も高く、20代でもっとも低い結果となった。
- ・平成21年度における対県比は、各世代すべてにおいて低い結果であった。



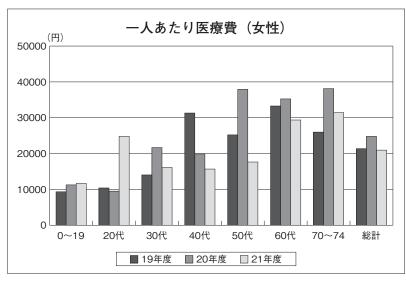
21年度男性	歯科分金額
0~19	728,150
20代	486,510
30代	1,539,580
40代	1,694,150
50代	3,703,340
60代	8,964,330
70~74	6,787,130
総計	3,196,927

・平成21年度における男性の歯科金額は、60代で最も高く、20代で最も低い結果となった。



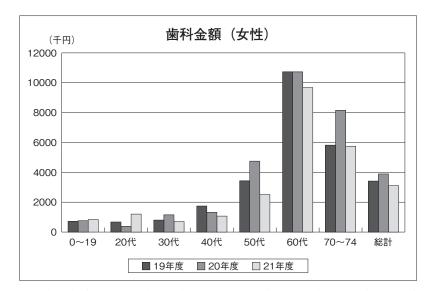
21年度女性	受診率	対県比
0~19	100.45	0.61
20代	141.25	1.39
30代	147.15	0.65
40代	109.96	0.57
50代	110.34	0.42
60代	169.25	0.75
70~74	185.25	0.42
総計	137.66	0.69

- ・平成21年度における女性の受診率は、70代が最も高く、20歳未満が最も低かった。
- ・平成21年度における対県比は、20代が1.39と高い結果となった。



21年度女性	一人あたり医療費	対県比
0~19	11,676	2.13
20代	24,802	2.42
30代	16,108	1.45
40代	15,680	1.84
50代	17,646	2.06
60代	29,366	2.35
70~74	31,415	2.67
総計	20,956	2.13

- ・平成21年度における女性の医療費は、70代が最も高く、20歳未満が最も低い結果となった。
- ・平成21年度における対県比は、すべての年代において高く、70~74歳が最も高かった。



21年度女性	歯科分金額
0~19	838,810
20代	1,203,620
30代	701,080
40代	1,069,420
50代	2,513,110
60代	9,675,220
70~74	5,748,960
総計	3,107,174
<u>-</u>	<u>-</u>

・平成21年度における女性の歯科金額は、60代で最も高く、30代で最も低い結果となった。

# フォーカスグループインタビュー

## 【乳幼児】

対 象:子育て支援センター来所者5名

実施日:平成21年12月15日 機 会:子育て支援センター来所時

#### ○歯の手入れ

- ・毎日はできないが、寝る前に簡単に仕上げみがきをする
- ・歯科医院で、フッ素塗布とは別にむし歯の進行止めを塗ってもらったことがある
- ○歯科保健に対するイメージ
- ・子どもは、歯医者の手袋を嫌がる
- ○歯や口のことで困っていること
- ・仕上げみがきのときに泣く
- ○歯科保健に対する要望、今後期待すること
- ・フッ素塗布終了(3歳)から、保育園入園後フッ化物洗口開始(4歳半)までの間のフォローをしてほしい

## 【小学生】

对 象:親子食育教室参加者(小学生13名、大人8名)

実施日:平成21年12月6日 機 会:親子食育教室

#### ○歯の手入れ

・デンタルフロス

・お母さんの仕上げみがき

- ○歯医者さんのイメージ
- ・こわくない
- ・楽しかった
- ○フッ化物洗口をどう思うか
- のどが痛くなる
- ・まずい
- ○歯をいつまでも健康に保つためにできること
- ・砂糖の多いお菓子を控える ・堅い食べ物を食べる(苦手な子もいる) ・歯みがきをたくさんする

## 【中学牛】

対 象: 3年牛6名 (男子 (保健委員) 3名、女子3名)

実施日:平成21年11月30日

機 会:放課後

#### ○歯の手入れ

・男子:学校での昼食後の歯みがきは時々

・女子:学校での昼食後に歯みがきは毎日

・家の人から歯みがきについて特に言われたことはない ・歯みがき以外の手入れは特にしていない

#### ○歯科医院のイメージ

- ・あまり行かないので、わからない(むし歯等の症状がないかぎり行かない)
- ・小さいころ、むし歯で行ったときは怖かった
- ○自分の歯をどう思うか
- ・歯並びがあまりよくない
- ○堅いものはすすんで食べているか
- ・面倒なので堅いものはあまり食べない(男子生徒)
- ・野菜等食べる(女子生徒)
- ○フッ化物洗口についてどう思うか
- ・歯によいと言われているので、してもよい
- ・まずいのでしたくない
- ○歯をいつまでも健康に保つためにできること
- ・歯みがきをしすぎると歯が傷つくので、液体歯みがき等を使う ・ジュース (コーラ) 等甘い飲み物を飲み過ぎないようにする
- ・1本1本の歯に気持ちを込めてみがく
- ・栄養バランスの取れた食事を心がける
- ・刺激の強いものはあまり食べないようにする

### 【成人男性】

对 象: 関川村役場職員6名 実施日: 平成22年1月8日

機 会: 昼休み

#### ○歯の手入れ

- ・歯科医院受診は覚えていないくらい前(3~4年前)
- ・歯みがきのとき、毛先の細さの違う歯ブラシ2本を使用している
- ・受診するのは、むし歯、かぶせた歯がとれた、歯石取り、親知らずを抜くとき

#### ○歯科保健、歯科医院に対するイメージ

- ・できれば受診したくない
- ・音が苦手
- . (本)、
- ・以前治療に行ったとき痛かった
- ・定期的に歯石取りに行ったほうがよいことはわかっているが、他に治療しなければならない歯を見つけられてしま うのが嫌

#### ○歯や口のことで困っていること

- ・歯並びが悪いのでしていない
- ・水で歯がしみる
- ・歯が丈夫でないのでいくつまで自分の歯でいられるか心配

#### ○歯を健康に保つために必要と思うこと

- ・定期的に受診すること(なかなか受診できないが)
- ・常に関心を持つ
- ・毎日の歯みがき

### ○歯を健康に保つためにできること、歯科保健に対する要望

- ・成人の歯科健診は、集団にすると恥ずかしいと思う人もいるのではないか
- ・口の状態の悪い例を実際に見せて啓発すればよいのではないか
- ・短時間で確実な歯みがきの方法があれば知りたい

#### 【成人女性】

対 象:子育て支援センター来所者5名(母、祖母)

実施日: 平成21年12月15日 機 会:子育て支援センター来所時

#### ○歯の手入れ

- ・歯みがきはしている
- ・夜は歯間ブラシも使用(5名中2名)
- ・歯科医院へは痛くなったりよほど困らないと行かない(健診の通知きても行かない)

### ○歯科保健、歯科医院に対するイメージ

- ・治療費が高い
- ・1本の歯の治療に何回も受診しなければならず、大変

#### ○歯や口のことで困っていること

- ・産後、歯にはさまるようになった
- ・歯ぐきが弱くなった
- ・子どもがいると歯科医院へ行くのが大変

#### ○歯の健康を保つためにできること、要望

・乳幼児健診に併せた歯科健診の実施

## 【健康づくり推進員】

対 象:健康づくり推進員12名 実施日:平成22年1月28日 機 会:アンケート配布依頼時

#### ○歯の手入れ

・おいしい食事をするために朝起きてすぐみがく

・歯科医院で勧められてフロスやブラシを使用

・定期健診は案内がくればすぐに受診する

・昼食後、うがいをする

・歯周病予防等のために歯みがき粉を意識して選んでいる

・悪くならないと行かない

#### ○歯科保健、歯科医院に対するイメージ

・待ち時間が長いので嫌

・口を開けているのは恥ずかしい

#### ○歯や口のことで困っていること

・歯と歯の間にすきまができてきた

・風邪をひくと歯がうずく

・歯が痛くなると肩が凝ったりと身体に症状が出る ・歯のみがき方はどのようなやり方が正しいのかわからない

#### ○歯の健康を保つためにできること、要望

・みがき方を指導してもらいたい

・歯科健診は集団個別を問わないが、特定健診の流れでやってはどうか

・歯の表彰があるとよい

# 【食生活改善推進員】

対 象:食牛活改善推進員13名 実施日:平成22年9月15日

機 会:役員会

#### ○歯の手入れ

・歯については後回しになってしまう

・歯間ブラシを使うことは頭になかった

入れ歯をしたまま寝る

・歯科医院には痛くならないと行かない

・子どもの歯は親の責任である

・夜はみがかない

#### ○歯に対するイメージ

・歯科治療も変わりよくなった(痛くない指導等もある)

・歯に対する関心は低い(知識を得る機会がない)

#### ○歯や口のことで困っていること

・歯科医院に行きたくても行けない

・堅いものは噛めない

#### ○歯や口を健康に保つためにできること

・歯の健康教育があるとよい ・定期健診は大切である

・歯科のイメージをよくする

・デイサービスはよく指導してくれる

・訪問診療(近くのセンター等があるとよい)

### 【高齢者】

対 象:地区懇談会参加者

実施日:平成21年11月~22年2月

機 会:村内地区懇談会

#### ○歯の手入れ

・歯みがきは毎日している

・歯ブラシ以外にも歯間ブラシやデンタルフロスも使用している

・定期健診をきちんと受けている

#### ○歯や口のことで困っていること

- ・口腔乾燥や夜間の口渇感がある
- ・1口30回噛むことは難しい

#### ○歯を健康に保つためにできること、要望

- ・歯科医から歯周病や入れ歯の手入れ方法等について教えてもらいたい
- ・現状を維持していきたい

## 【障害者(身体)】

对 象:機能訓練参加者6名 実施日:平成21年11月18日

機 会:機能訓練

#### ○歯の手入れ

- 1日3回以上みがく
- 1日3回みがく
- ・朝晩2回みがく
- ・部分入れ歯なので、食後残歯をブラッシングする
- ・食べたらすぐカテキン作用のあるお茶を飲む
- ・意識してせんべいやたくあん等の堅いものを食べており、家族も協力的である
- ・年2回定期健診を受け、歯石を取っている
- ・むし歯等で痛くなる前に歯科医院に行く

#### ○歯科保健に対するイメージ

- 小さいときは怖かった
- ・痛い

#### ○歯や口のことで困っていること

- ・子どものころからむし歯が多かった
- ・入れ歯だと、もちやガム等は歯にくっついて食べにくい
- ・口臭が気になる
- ・歯並びが悪い
- ・残歯の手入れ方法がわからない

#### ○歯を健康に保つためにできること、要望

- ・年1回程度、話し合いの場を設け、住民向けの歯の健康教育を行う
- ・このような機会をもっと早く行うべきであり、対応が遅い
- ・歯科医が定期的に講話を行う

## 【障害者(精神)】

対 象:通所作業所通所者および職員9名

実施日:平成22年2月22日

機 会:さくら工房

#### ○歯の手入れ

- ・歯みがきは朝晩2回(とくに朝食後、寝る前)の方が多い
- ・上は総入れ歯、下は残歯あり→入れ歯を外して残歯をみがく
- ・入れ歯は衛生上寝る前に外して洗う
- ・健診受けている
- ・違和感があればすぐ歯科医院へ行く
- 治療にはきちんと行く
- ・治療中、行ったり行かなかったりする

#### ○歯科保健に対するイメージ

・怖くない

#### ○歯や口のことで困っていること

- ・入れ歯にしたばかりのときは慣れず、慣れるのに1ヶ月くらいかかった
- ・入れ歯のおかげで堅いものでも食べられるようになった
- ・昔からむし歯が多かった

#### ○歯の健康を保つためにできること、要望

- ・甘いもの(缶コーヒー、あめ、チョコレート等)は摂りすぎないようにしている
- ・甘いものは太る、血糖値が上がるためほとんど摂らない
- ・我慢のしすぎはストレスになりよくないので、寝る2時間前に食べないようにする形で気をつけている
- ・特に一人暮らしは野菜不足や栄養が偏りやすくなるので、食事のバランスに気をつける

# 関川村歯科保健第1回関係者協議会 意見交換のまとめ

# 1 G

## 【歯科保健の現状で気になっていること】

- ○住民の関心は薄い
- ○関川村は成人の歯科健診がない→成人の実態がわからない
- ○むし歯は減少してきているが、歯周病はまだまだ多い
- ○歯は一生使わなければならない大事なものだが、歯に対する関心が低いような気がする
- ○歯は全身の健康状態につながっている
- ○歯科医によって温度差がある
- ○高齢者で残歯がある方を見かける。義歯をしていなく、気になる
- ○虫歯の多い子の家庭への関わり方をどのようにすればよいか
- ○若い Dr は「予防」という認識がある(60歳以上の Dr はそういう認識は比較的薄い)
- ○最近は治療も痛くない (BGM や治療法) ので若い人の方が歯科医に対するイメージはよい

# 【できること、やらなければならないこと、期待すること等】

- ○人間ドックや一般健康診断の流れで歯科健診も受けてもらう環境を作るとよいのでは…
- ○定期健診の際にカラーテスターで磨き残しチェックをしてもらい、歯磨き指導までしてもらう
- ○日本歯科大、歯科の博物館に連れて行くツアーを行う(学校等で)
- ○住民に健診を受けてもらうための工夫が必要
- Dr ではなく、衛生士が健診を行ってはどうか(受けやすくなるのではないか)

# 2 G

# 【歯科保健の現状で気になっていること】

- ○痛くならないと歯科医院には行かない(定期健診の案内が来ても行かない)
- ○忙しくて歯科医院へ行く時間がない
- ○歯科医への苦手意識がある人もいる(特に若い人)
- ○高齢者・要介護者の歯や口の汚れが気になる
- ○「歯」への関心、意識が低い→自覚症状がないと意識が向かない
- ○歯科の知識がまだまだ不足している
- ○車等がないと特に高齢者は歯科医院に通いづらい

# 【できること、やらなければならないこと、期待すること等】

- ○ライフステージごとに情報を発信していってはどうか
  - →実現するための環境をどこまで整備できるか
- ○情報共有が大切
- ○歯科をPRすることが大切(例えば、広報やゆるキャラを使う)
- ○表彰を取り入れる
- ○時間がない人は、初診は土曜日や夕方等に行く→次の予約につながる

## 【歯科保健の現状で気になっていること】

- ○自分でケアしなければならないことだが、関心が薄い
- ○以前よりも意識して歯を磨くようになった
- ○子どもでもむし歯を多く持っている子と少ない(全くない)子の差が大きい →親の認識の問題では?
- ○治療には1ヶ月くらいかかる (痛くなるまで我慢して受診するので受診期間が長くなる)
- ○間食の時間や取り方を気をつけないと生活のリズムが乱れ肥満にもつながる
- ○幼児や学童の歯肉炎が増えている
- ○忙しく、ゆっくり歯を磨いている時間がない
- ○今の子どもは顎が小さく、あまり噛まない

# 【できること、やらなければならないこと、期待すること等】

- ○歯科健診も基本健診のような感じで受診できるとよい
- ○永久歯への生え替わりの時期は特に親がしっかり見る必要がある
- ○定期的なメンテナンスが大切になる

# 4 G

# 【歯科保健の現状で気になっていること】

- ○子どもも大人も歯科に関心のある人とない人の差が大きい
- ○歯が悪い子→家庭環境による可能性が大きく、歯に限らない
- ○家庭では家族みんなで声をかけていく → 誰がキーマンになるか
- ○新潟市は妊産婦の歯科健診を保健所で実施している
- ○間食の時間や取り方を気をつけないと生活のリズムが乱れ肥満にもつながる
- ○幼児や学童の歯肉炎が増えている
- ○忙しく、ゆっくり歯を磨いている時間がない
- ○今の子どもは顎が小さく、あまり噛まない

# 【できること、やらなければならないこと、期待すること等】

- ○大学は訪問診療をするのに設備が整っているが、個人歯科医はこうしたことをするのが難しい。 きちんとした設備があれば訪問診療も実施できると思う(予算の問題)
- Dr によって健診結果が異なるため、住民から苦情がくることもある
- ○健診の方法として、個別健診や集団健診の中で無料券を配布するのはどうか
- Dr が街に出向いていいイメージをPRする
- ○住民が気軽に健診を受けられるように健康祭り等のブースに歯科健診コーナーをつくる (Ex大したもん蛇まつり)

# 関川村歯科保健計画第3回関係者協議会意見交換資料

				 b児期					
	感	じていること	・仕上げみがきのときに泣くので ・歯科医の手袋を嫌がるので困る ・むし歯の多い子の家庭への関わ ・今の子どもは顎が小さく、あま ・むし歯を多く持っている子と少な ・幼児や学童の歯肉炎が増えてい	困る り方をどのように り噛まない い(まったくない)・					
現	ゃ	っていること	個人で ・歯の手入れは毎日はできないが に仕上げみがきをする	、寝る前に簡単	・10~11ヶ月児・1歳6ヶ月児 ・1歳6ヶ月児 ヶ月児歯科衛生・3歳児健診にて				
状			保育園で ・フッ化洗口:年中組(4歳児)施(希望者のみ)・昼食後の協・園児に対し、歯科衛生士・村栄養を歯科保健指導・保護者向け保健たよりの発行・定期健診、治療勧告(年2回)	厨みがき 養士・保健師によ	・フッ素塗布と もらったこと:	歯科医院で は別にむし歯の進行止めを塗って がある			
				むし歯所有率	(H21年度)				
			女川保育園	大島(		下関保育園			
		歯科疾患罹患状況調査 ※( )は最も高い学年	38.8%(5歳児66.6%)	74.2%(4点		68.2%(4歳児75%)			
	ア	※( )は取り高い子中		むし歯所有率		<b>工</b> 即/0 + 国			
課	ン		女川保育園 60.0%(4歳児100%)	大島( 76.7% (5.5		下関保育園 70.1% (5.65/187.5%)			
	ケ			76.7%(5点	***	70.1%(5歳児87.5%)			
題	ト結	H 2 1 年 度 歯 科 疾 患 実 態 調 査	<ul> <li>・1歳6ヶ月児1人平均むし歯数:0本(県平均0.07本より低い)</li> <li>・2歳児一人平均むし歯数:0.41本(県平均0.2本より高い)</li> <li>・2歳6ヶ月児一人平均むし歯数:0.83本(県平均0.32より高い)</li> <li>・3歳児一人平均むし歯数:2.07本(県平均0.76本より高い) →県内順位:29/29位</li> <li>・3歳6ヶ月児一人平均むし歯数:1.87本(県平均0.71本より高い)</li> <li>・5歳児一人平均むし歯数:4.05本(県平均2.31本よりも高い) →県内順位:28/30位</li> </ul>						
	果	レセプト分析	・1件あたりの日数、1日あたり						
	・統	H20年度食育アンケート (保護者対象)	・好き嫌い:「野菜嫌い」67.6%(ピー	-マン・長ねぎ・き(	をねぎ・きのこ類・トマト・生野菜全般が多い)、「牛乳 休日:朝食後69.1%、昼食後89% ※量は決めてい				
l	l	食事聞き取り調査集計 (H19年度集計) (1~3歳児保護者対象)	・好き嫌い:「生野菜が嫌い」 1 歳 ・間食1日3回以上 1 歳児41.2 ヨーグルト・果物が多い) ・食事で困っていること: 1 歳児: 少食・野菜が苦手、3歳児:ム:	%、2歳児15%、 遊び食べ・ムラ貸	3歳児23%(内)	9容は、せんべい・チョコレート・ 6ヶ月児:魚、肉食べない・偏食・			
		乳幼児健診結果	- 1 年の 4 日旧焼砂・仕上げ 5 がき 6 実施 1 ブロケック (業者 も) 7 3						
対策	ゃ	ったほうがいいこと (要 望)	・フッ素塗布終了(3歳6ヶ月)から、 ・家庭では家族みんなで声をかけ ・幼少期から歯の健康に関する教 ・30代男女とも「子どものむし歯 ・歯科衛生士によるわかりやすい	ていく(誰がキー 育・健診を徹底す i予防を行うとより	-マンになるか) <sup>-</sup> ることを希望 ハ」と回答が約4				
目		指 す 方 向	<ul><li>・家族みんなで子どもの歯を守っていける(家庭全体で歯に対する関心が高まる)</li><li>・むし歯になりにくい生活習慣が身につけられる(食生活・生活リズムなど)</li><li>・歯に関する知識が広まり、歯科医のイメージがよくなる(フッ化物洗口・定期健診・歯科指導等なんでも相談できる)</li></ul>						
関	係	者協議会での意見	に入ってからは、むし歯のある その背景としては、親の認識の きく影響していると感じる。 若年層の父母に関しては、むし 場合は妊婦の段階で指導してい ・保育園の給食を担当しているが 聞くと、柔らかいものが多い。	子とない子の差か違いや祖父母と同歯になったら治療く必要がある。(・、 むし歯があるうする関心も低く、	が大きい。 司居している(お いないとい いな育士) そは堅いものが噛 歯みがきもうま	指導をしてほしい。また、保育園やつの与え方)など家庭環境が大う考えの方が多い。とくに女性のめない。家庭で食べているものをくできない様子である。親が仕上と思う。(栄養士)			

Г	_		 学童・思春期				
		歯医者さんのイメージ	・歯医者さんはあまり怖くない、楽しかった(小学	至生) ・あまり行かないのでわからない(中学生)			
	感じ	フッ化物洗口を どう 思うか	・のどが痛くなる、まずい(小学生) ・歯によい ・まずいのでしたくない(中学生)	と言われているのでしてもよい(中学生)			
	ていること	気になっていること等	・歯並びがあまりよくない(中学生) ・間食の時間や取り方に気をつけないと生活のリズムが乱れ、肥満にもつながる ・幼児や学童の歯肉炎が増えている ・今の子は顎が小さく、あまり噛まない ・身体計測時に開口したまま受ける児童が目につく。普段から口呼吸になっているのか、歯並びのためなのか気になる。(小学生) ・治療勧告後の受診率が40%にとどまっている→本人、保護者とも治療の必要性を感じている人が少ない?(中学校) ・思春期になると歯肉炎が増加(正しいブラッシングが必要だが、指導の時間をなかなか確保できない。(中学校) ・少数であるが、朝・晩の歯みがきが習慣化されていない生徒もいる。(中学生)				
現			個月・デンタルフロスを使っている(小学生) ・お・昼食後の学校での歯みがき:【男子】ときどき【・家の人から歯みがきについてとくに言われたこと・歯みがき以外の手入れは特にしていない(中学生・堅いものはあまり食べない(中学生男子) ・!	母さんの仕上げみがき(小学生) 女子】毎日(中学生) こはない(中学生)			
状			学村				
	ゃ	っていること	関川小学校 ・小学3年生対象に歯科保健協会委託でお口の健 康教室(7月5日)	関川中学校 ・保健たよりへの掲載 ・カラーテスターの実施			
課			・フッ化物洗口(週に1回水曜日) ・歯みがきカレンダー(長期休業中) ・保健たよりへの掲載(歯みがきの学年別ポイントを指導) ・歯の衛生週間の児童保健委員会の活動	・保健委員による歯みがき等についてのアンケートの実施と結果報告・給食時の保健委員による保健指導(給食後の歯みがき呼びかけとポスター掲示)・学校医による歯科健診と治療勧告(長期休業前)→しかし、受診率は4割程度と本人・保護者の治療必要性の意識が低い			
題	ア	H22年度学校保健統計資料集	・【小学校】永久歯のむし歯有病率:19.4%(郡市平均10.4%)→郡市よりも高い・昨年度より減少・【中学校】永久歯のむし歯有病率:39.1%(郡市平均30.4%)→郡市よりも高い・昨年度より減少・処置歯率は小中ともに昨年度より大きく下がり、郡市平均よりもかなり低い・【小学校】肥満度は男子は郡内でも低い方であるが女子は郡市より高い・【中学校】肥満度は男子は郡市よりも高いが、女子は郡市よりも低い				
	、ンケート結果・統	H21年度関川村小中学校保健統計資料	・【小学校】永久歯のむし歯有病率:20.7%(県平均・【中学校】永久歯のむし歯有病率:40.8%(県平均・歯周疾患があり定期的に観察しているもの 小学・むし歯有病率の年度推移は、大きな増減はなから・小学校におけるむし歯有病率は、フッ化物洗口開始前の昭・むし歯有病率を村内学校別にみると、安角小学校	339.7%、郡市平均32.0%)→県、郡市よりも高い 全校:11.5%、中学校:25.1% った 日和61年度の67.4%から20.7%に減少した。(予防率82.5%)			
	計等	H 2 1 年 度 歯 科 疾 患 実 態 調 査	・12歳児の一人平均むし歯数:0.84本(県平均0.80本 人平均むし歯数:年齢が高くなるにつれ、県内順位は。	より高い)→県内順位:20/31位→関川村の子どもの一 よくなっている。(3歳児:29/29位、5歳児:28/30位)			
		H20年度小・中学生 食 育 ア ン ケ - ト	・間食 平日:夕食後40%強 休日:昼食後70 ・【起床時間】小学生:6時過ぎ約90%、中学生: 【就寝時間】小学生:9時過ぎ50%強、10時過ぎ3				
対策	ゃ	ったほうがいいこと (要 望)	・永久歯への生え替わりの時期は、特に親がしっか・砂糖が多く含まれるお菓子・ジュースを控える・堅い食べ物を多く食べるようにする(小学生)・歯みがきの仕方(たくさんやる、丁寧にやる)(・歯みがきをしすぎると歯が傷つくので液体歯みが・栄養バランスの取れた食事を心がける・刺激の・かみごたえのある食べ物をゆっくりとよく噛んで食べる・自分の歯にもっと関心を持ち、健康な歯を保とう・正しいブラッシングを身につけ、習慣化をはかる・家庭・地域ぐるみでの歯科保健に関心を持つよう・歯科衛生士による歯みがき指導、むし歯予防指導	(小学生、中学生共通) 小学生、中学生) きを使う ・1本1本の歯に気持ちを込めてみがく )強いものをあまり食べないようにするとよい 6 ・食後にブラッシングをして口腔内をきれいに保つ 5 とする気持ちをもつこと 6 な働きかけ、連携した取り組み			
目		指 す 方 向	・日頃から、自分で歯や口の手入れが適切に行える ・自分の笑顔に自信が持てる ・むし歯予防等につながる食事やおやつにより、歯 な生活習慣の確立・肥満予防) ・歯周病等を防ぐ方法を正しく理解できる	5 (セルフケア能力・正しい知識の普及) 歯や口だけでなく身体の健康も意識できる(基本的			
関	係	者協議会での意見	の汚れが多い。(歯科医) ・小学校では、乳歯から永久歯への生え替わりの時 協会のテープ等を使用している)取り組みとしては また、感染症予防にもよいといわれているので、	し、歯肉炎予防の正しいみがき方を指導している。			

	青壮年期・妊産婦								
	感じ	歯科(医院)に対するイメージ	・できれば受診したくない(男性) ・音が苦手(男性) ・治療費が高い(女性) ・怖い(健推) ・以前治療に行ったとき痛かった(男性) ・口を開けているのは恥ずかしい(健推) ・待ち時間が長いので嫌(健推) ・歯科医によって温度差がある(意見交換) ・食材の工夫が必要 ・最近は治療も痛くない(BGMや治療法)ので、若い人の方が歯科医に対するイメージはよい(意見交換) ・噛む意識、関心が低い→マイナスイメージを持っている方が多い ・1 本の歯の治療に何回も受診しなければならず、大変(女性) ・若い Dr は 「予防」という認識がある(60歳以上の Dr はそういう認識は比較的薄い)(意見交換) ・定期的に歯石取りに行ったほうがよいことはわかっているが、他に治療しなければならない歯を見つけられてしまうのが嫌(男性)						
現	ていること	気になっていること、 困 り ご と 等	・歯並びが悪い(男性)・水で歯がしみる(男性)・歯ぐきが弱くなった(女性) ・産後、歯にはさまるようになった(女性)・歯と歯の間に隙間ができてきた(健推) ・風邪をひくと歯がうずく(健推)・正しい歯みがきの仕方がわからない(健推) ・子どもがいると歯科医院へ行くのが大変(女性)・歯が痛くなると肩が凝ったりと身体に症状が出る(健推) ・一般的にアンケートは結果を活かして次へつなげることが難しい(意見交換) ・歯が丈夫でないので、いくつまで自分の歯でいられるか心配(男性) ・短時間で確実な歯みがきの方法があれば知りたい(男性) ・歯は大事だ、何でもおいしく食べられるのはよいことだ、現状維持したい等関心のある方もいる(男性) ・自分でケアしなければならないことだが、関心が薄い(意見交換) ・関川村は成人の歯科健診がない→成人の実態がわからない(意見交換) ・忙しく、ゆっくり歯みがきをしている時間がない(意見交換) ・歯は一生使わなければならない大事なものだが、歯に対する関心が低いような気がする(意見交換)						
			個人で						
状	や	っていること	・最近の歯科医院受診は3、4年前(男性) ・意識して歯みがき以外の手入れ(歯間ブラシ等)も行っている方が多い(男性) ・悪くならないと行かない(健推)・歯みがきのとき、毛先の細さの違う歯ブラシ2本を使用している(男性) ・夜は歯ブラシ以外に、歯間ブラシも使用している(女性)・昼食後、うがいをする(健推) ・おいしく食事をするために朝起きてすぐみがく(健推)・歯科医院で勧められてフロスやブラシを使用(健推) ・定期健診は案内がくればすぐに受診する(健推) ・歯科医院へは痛くなったり、よほど困らないと行かない(健診の通知がきても行かない)(女性) ・歯周病予防等のために歯みがき粉を意識して選んでいる(健推)						
			・地区健康教育(地区懇談会): H21年度歯科に関する話題提供8会場で実施 ・歯周疾患検診(H22年度より実施。6月~12月郡市歯科医師会へ委託。対象者: 40・45・50・55・60・70歳の関川村民) ・歯周疾患チェック(H22年度より特定健診会場にて歯科衛生士が実施。対象者: 30~59歳関川村民)						
題	アンケート結果・統計	歯に関するアンケート ※H22.2実施 30~79歳の 全村民 (4,275人) 対象 回 答 率 8 5 . 4 % ~H20年度県民健康栄養実 態調査(県平均)との比較~	(1) 歯みがきの状況、回数:1日3回以上みがく方は、各年代県とほぼ同じ傾向。(60代は差あり→県30.7%、関川村17.5%(関川村低い))・「1日2回(朝食後、寝る前)みがく」は、最も多く20%・「朝食後みがく」は、30・40・50代に多く、60%程度。(「起床後みがく」は70代に多い)・「昼食後みがく」は、男性が低く、各年代ともに20%以下・「昼食後みがく」は、男性が低く、各年代ともに20%以下・「健用していない」は、県、関川村ともに各年代で最も高く、どちらも総計60%程度。30代では差あり、県70%、関川村60%(関川村低い)・「使用していない」は、県、関川村ともに各年代で最も高く、どちらも総計60%程度。30代では差あり、県70%、関川村60%(関川村低い)・「使用していない」は、県、関川村ともに各年代通じて関川村が低く、総計で県35.0%、関川村11.0%(関川村70代が7.2%で最も低い)はの本数 20本以上ある方:県と関川村では70代に差あり→県40%程度、関川村7.5%(関川村代い)(5) 喫煙状況:「吸っている、いた」: ①県・関川村では70代に差あり→県40%程度、関川村7.5%(関川村代い)(5) 喫煙が、同収っている、いた」: ①県・関川村では70代に差あり→県40%程度、関川村7.5%(関川村代い)とり、男性53%、女性9.7%)また、男性は各年代で県よりも関川村が低い、②「全く吸ったことがない、吸っていない」: 県、関川村ともに男女いずれも70代が最も低い→歯の手入れ(はみがきの回数、歯間部清掃用器具の使用状況、1年間の歯科健康診査事業の受診状況)については、ほとんどにおいて県より関川村が低く、これに比例して20本以上歯を有する方の割合は、すべての年代において、県より関川村が低い。しかし、喫煙の状況はすべての年代において、関川村より県が高い、よっての年代において、関川村が低い。しかし、喫煙の状況・変性の年代において、関川村より県が高い、「何もしない」が約30%→全体として意識は低め・かかりつけ歯科医は、総計で男性約60%、女性約70%(女性が高い)・「健康状態」は、「よい」、「まあよい」、「ふつう」合計で約80%程度・「8020運動を知っている」は、総計で女性40%、男性27%(40代女性が最も高く、49%)						
	等	H22年度歯周疾患健診	・受診率2.8%(9月現在) ・男性の受診者が少ない ・40代の受診が多い ・定期受診していない方の受診が多い ・異常なしが少なく、要精検・要治療者が多い ・問診では、口臭や出血、痛み等の悩みごとがある方もいる						
		H22年度歯周疾患チェック	・健診申込み者に対する受診率20.6%・健診受診者に対する受診率47.8% ・50代男性の受診割合が高かった。・各年代通じて、平均13点(20点中)くらいであった ・「歯ぐきからの出血あり」は40代が46%で多い ・「歯や口の悩み事がある」は50代が42%で多い ・唾液潜血テスト結果:陽性47人、陰性 9 人(対象30 $\sim$ 59歳)・問診でのかかりつけ歯科医の有無:あり30%、なし70%						
		レ セ プ ト 分 析 (H19年~21年分)	・入院以外の診療では、消化器系の疾患の占める割合が 2 ~ 3 割と多く、中でも各年代とも「う蝕」の占める割合が 8 ~ 9 割である・H21【医科+歯科(円)対県比】男性:0 ~ 4歳、35 ~ 39歳、40 ~ 45歳 女性:10 ~ 14歳、20 ~ 24歳、25 ~ 29歳 →関川村が高かった						
対策	や	ったほうがいいこと (要 望)	・定期的に受診すること(なかなかできないが…)(男性)・常に関心を持つ(男性)・毎日の歯みがき(男性)・成人の歯科健診は集団にすると恥ずかしいと思う人もいるのではないか→個別で(男性)・口の状態の悪い例を実際に見せて啓発すればよいのではないか)(男性)・乳幼児健診に併せた成人歯科健診の実施(女性)・みがき方を指導してもらいたい(健推)・歯み軽診は集団個別を問わないが、特定健診の流れでやってはどうか(健推)・歯の表彰があるとよい(健推)・人間ドックや一般定期健康診断の流れで歯科健診も受けてもらう環境を作るとよいのでは…(意見交換)・定期健診の際にカラーテスターでみがき残しチェックをしてもらい、歯みがき指導までしてもらう(意見交換)・日本歯科大や歯科の博物館に連れて行くツアーを行う(学校等で)(意見交換)・食材の工夫が必要・住民に健診を受けてもらうための工夫が必要(意見交換)・・食材の工夫が必要・住民に健診を受けてもらうための工夫が必要(意見交換)・Drではなく、衛生士が健診を行ってはどうか(受けやすくなるのではないか)(意見交換)・歯科健診も基本健診のような感じで受診できるとよい(意見交換)・定期的なメンテナンスが大切になる(意見交換)・歯科健診も基本健診の方法として、個別健診や集団健診の中で無料券を配布するのはどうか(意見交換)・ひrが町に出向いていいイメージをPRする(意見交換)・住民が気軽に健診を受けられるように健康祭り等のブースに歯科検診コーナーをつくる(意見交換)・広報やゆるキャラでもっと歯科についてPRする・「食育の機会」、「歯や全身の病気を知る機会」などの学習・体験の機会を増やす						
目		指 す 方 向	・歯や口に関する正しい知識の普及(セルフケア能力の向上) ・定期健診の普及・定着(妊産婦や働き盛り世代でも健診・治療を受けやすい方法の検討) ・自分の歯や口に関心が持てる ・歯科のイメージUP						
関	係	者協議会での意見	・歯科衛生士による食生活改善推進員を対象とした研修に参加した。これまで知らなかった歯周病ケア等の方法を知ることができ、大変勉強になった。このような機会が住民を始めより多くの方にあるとよい。(食生活改善推進員) ・乳幼児の親子健診で自分の歯に関心を持つことで家族への還元もできる。今年度より始まった唾液潜血テストについて、今後要精検者への受診状況の把握等を行っていくとよいのではないか(県専門職)						

	高齢期							
現	7	じていること(気になっ いること、困りごと等)	・口腔乾燥や夜間の口渇感がある ・1口30回以上噛むことは難しい ・残歯があると要介護になったら手間になると聞いた ・残歯の手入れ方法 ・歯みがき以外には何も手入れをしない方が非常に多い ・歯や口に対する関心が低い ・高齢者で義歯をしないのが気になる ・きちんとした設備があれば訪問診療も実施できると思う(予算の問題)(意見交換) ・高齢者・要介護者の歯や口の汚れが気になる ・車など交通手段がないと特に高齢者は歯科医院に通いづらい ・大学は訪問診療をするのに設備が整っているが、個人歯科医はこうしたことをするのが難しい					
		っていること	・歯みがきは毎日している ・歯ブラシ以外にも歯間ブラシやデンタルフロスも使用している ・定期健診をきちんと受けている ・現状維持していきたい ・義歯は寝るときもはずさない ・義歯は洗浄液につけるだけ ・口腔の手入れは1日1回 ・電動歯ブラシを使用して、歯や歯ぐきがとてもよくなった					
題		全村民(4,275人)対象	・地区健康教育(地区懇談会):参加者の約7割が65歳以上(H21年度歯科に関する話題提供:8会場)  (1) 歯みがきの状況、回数:1日3回以上みがく方は、60代から低くなる→県30.7%、関川村17.5%(関川村低い) ・「起床後みがく」が70代に多く、45%程度(cf.「朝食後みがく」は30・40・50代に多い)  (2) 歯間部清掃用器具の使用状況 ①デンタルフロス:各年代で関川村低い ②歯間ブラシ:県33%、関川村19.5%(関川村低い)  (3) 最近1年間の歯科健康診査受診状況:関川村70代が7.2%で最も低い・歯科医院の受診はかかりつけ医もある60代が5割以上で多い(内容は「治療した歯が悪い」で2割)  (4) 歯の本数 20本以上ある方:県と関川村では70代に差あり →県40%程度、関川村27.5%(関川村低い)60代から減り始め70代で大きく減少する  (5) 喫煙状況:「全く吸ったことがない、吸っていない」:県、関川村ともに男女いずれも70代が最も低いい  (6) 歯や口に関する保健行動・健康状態・要望・「おいしく食事ができる」は総計で約80%であるが、「噛みにくい」は70代が最も高く約25%・「かかりつけ歯科医あり」は60代女性が最も高く、77.6%					
		H22年度歯周疾患健診	・受診率2.8%(9月現在) ・異常なしが少なく、要精検・要治療者が多い ・問診では、口臭や出血、痛み等の悩みごとがある方もいる					
対策	ゃ	ったほうがいいこと (要 望)	・歯科医から歯周病や入れ歯の手入れ方法等について教えてもらいたい ・地区でも歯科医師から歯周病や義歯の手入れ方法等を教えてもらいたい ・堅いものでも何でもおいしく食べられるとよい ・歯みがき以外にも、歯間ブラシやデンタルフロス等を使用するとよい ・定期健診をきちんと受けるとよい ・糖尿病患者が増えているので、歯周病予防についても徹底したほうがよい ・電動歯ブラシの使用を勧めたほうがよい ・65歳以上を対象とした関川村独自の健康指針を発信するとよい ・目が悪いため、歯科医が往診してくれるとよい ・K歯科医院の   先生にまた来てもらいたい ・特定健診の項目に歯科健診を入れてもらえるとよい ・イベントを実施しても参加者が少ないことには意味がない。わざわざ人を集めるよりも集まった場所で各世代に合った話をするのがよい ・健診等、広域単位で実施すると徒歩で行く方にとっては大変なので、集落センターあたりで実施するとよい					
E		指 す 方 向	・歯科医院受診しやすい環境の整備(スクールバス等活用・交通手段の確保、往診・歯科医院の開く時間等) ・口腔ケアに関する正しい知識の普及→義歯・残歯の手入れを習慣化できる ・歯を丈夫にする食生活ができる(噛む・誤嚥防止・食材の工夫・バランスのよい食事) ・自分の歯や口に関心が持てる(訪問歯科健診の PR) ・歯科のイメージUP					
関	了係	者協議会での意見	・3世代以上で暮らしている家庭も多いと思うが、日中家にいる高齢者を対象に、祖父母の孫へのおやつの与え方を含めた講話をするとよいのではないか。(歯科医)・歯に関する意識には個人差がある。歯が残っている人については手入れが大変だが、健康に対する意識は高い。また、高齢者はむし歯で食事ができなくなると若い人よりも痩せ方が著しい。高齢者の歯に対する関心を高めるべく健康教育を行うとよい。その方法として、高齢者の集まる機会を利用するべき。たとえば、「むつみ荘のお湯入り」の機会などは良いと思う。(保健師)					

	要介護者・障害者									
		歯	科	の	1	( )	X	_	ジ	・怖くない ・小さいときは怖かった ・痛い
現状	<ul> <li>子どものころからむし歯が多かった ・入れ歯だと、もちやガム等は歯にくっついて食べにくい ・入れ歯にしたばかりのときは慣れず、慣れるのに1ヶ月くらいかかった ・口臭が気になる ・歯並びが悪い ・入れ歯のおかげで堅いものでも食べられるようになった ・歯肉炎の方が多い ・残歯の手入れ方法がわからない ・高齢者や要介護者の歯が汚れているのが気になる ・対象者が多く、細かいチェックが困難(介護保健施設) ・利用時以外デイサービス利用後、家でも口腔内をきれいにしようと意識する方も出てきたが、時以外全くみがかない方もいる ・歯科衛生士の個別指導は効果がある</li> </ul>									
.										個人で村で
題	や	7	-	C	Ų١.	る	•	2	٤	・1日3回以上みがく ・1日3回みがく ・朝晩2回みがく ・むし歯等で痛くなる前に歯科医院へ行く ・食べたらすぐカテキン作用のあるお茶を飲む ・年2回定期健診を受け、歯石を取っている ・意識してせんべいやたくあん等の堅いものを食 べており、家族も協力的である ・部分入れ歯なので、食後残歯をブラッシングする  施設で ・職員による食後の口腔ケア(7/8施設が実施) ・食前のお口の体操(嚥下機能訓練、発音訓練、咀嚼訓練等)(6/8施設が実施) ・食後の歯みがき促進 ・歯科医院受診勧奨、同行 ・特定の利用者に対して舌や頬、口唇の運動を取り入れる ・口腔ケアの知識を講習経験のある職員から普及させ、全職員で実施 ・H21年度、県在宅要介護者等歯科保健推進事業による口腔ケア実地研修指導(村内2施設が実施) ・H22年度から口腔機能維持管理により、月1で歯科衛生士が職員に口腔ケア指導・助言、施設全体の口腔ケアマネジメントを計画 ・地域活動支援センター(さくら工房)にて年1回歯科健診実施→健診後受診につながる方もある
対策	や	7		<b>ま</b> う(要				\ \ 2	2 Ł	・年に1回程度話し合いの場を設け、住民向けの歯の健康教育を行う ・このような機会をもっと早く行うべきであり、対応が遅い ・歯科医が定期的に講話を行う ・住民の意見交換の場がもっとたくさんあるとよい ・甘いものを摂りすぎないようにする ・食事のバランスを大切にする ・野菜をたくさん摂るようにする ・施設入所者への定期歯科健診があるとよい ・歯科保健計画の内容が知りたい ・通院困難な方へのフォローが必要 ・サービスを利用していない独居高齢者のフォローとして、定期健診を行う ・受診率の低い高齢者へ訪問による健診やチェックなどを行う ・車いす利用者や寝たきり者へ訪問による健診やチェックなどを行う ・施設職員に対する研修の実施 ・入所者への定期的な歯科健診があればよい ・病院での「嚥下能力判定」にあたる検査をしてもらえると、利用者に対してより適切なケアができるのでよい ・歯科保健計画の内容を知りたい ・口腔ケアが必要な特定の利用者については顕著な成果が出ているが、利用者全体の口腔に関する成果が見えないので口腔ケアの方法や支援体制、その他情報がほしい ・病院等による嚥下能力判定にあたる検査をしてもらえると利用者に対してより適切なケアが可能となる
目		指		す	-	7	方		向	・自分で意識して歯の手入れが実施できる ・家族や関わる職員がその人に合った手入れの仕方を理解できる ・いつでも定期健診等の歯科受診ができる(交通手段の検討や往診等)
関	・ 歯科衛生士の指導は毎日ではない。介護職員の認識が大切で、いかに一生懸命やってもらうが要となる。(歯科医) ・要介護者一人ひとりの歯や全身の健康維持については、施設職員もわかっていてもできないこともあるの部分をどう対処していくかが今後の課題となる。この計画を通して、皆が自分の歯だけでな他人の歯も大切と思えるようになるとよい。(保健師)									

# 関川村歯科保健計画の策定経過

年月日	内 容
平成21年11月18日~ 平成22年2月22日	フォーカスグループインタビュー〜住民との意見交換〜 (ライフステージ別に全9回実施)
平成21年12月~ 平成22年3月	国保レセプト分析
平成22年1月7日	第1回関川村歯科保健計画策定関係者協議会 (関川村歯科保健の現状と課題の検討)
平成22年2月	「歯に関するアンケート」実施
平成22年3月16日	第2回関川村歯科保健計画策定関係者協議会(歯に関するアンケート結果報告及び23年度歯周疾患健診の方法等検討)
平成22年8月	介護サービス事業所へのアンケート実施
平成22年9月	学校関係へのアンケート実施
平成22年9月15日	食生活改善推進員との意見交換
平成22年10月22日	第3回関川村歯科保健計画策定関係者協議会 (基本理念、ライフステージ別の課題と対策の検討)
平成23年2月3日	第4回関川村歯科保健計画策定関係者協議会 (素案検討)
平成23年2月	計画素案の修正、計画完成
平成23年3月13日	生涯楽習広場にて住民への普及啓発

# 関川村歯科保健計画策定委員名簿

# 【関係者協議会委員】

平成23年3月

氏 名	所属等	備考
末 高 武 彦	日本歯科大学新潟生命歯学部教授	
小松崎 明	日本歯科大学新潟生命歯学部准教授	
佐 藤 鶴 英	岩船郡村上市歯科医師会公衆衛生担当理事	
橋 本 和 雄	関川歯科診療所長	
諸 橋 きよみ	新潟県歯科衛生士会下越支部歯科衛生士	
伊 東 ヤイ子	関川村食生活改善推進員協議会会長	
伊 藤 修	関川村健康づくり推進員連絡会会長	平成21年度
高 橋 正 之	関川村健康づくり推進員連絡会会長	平成22年度
長谷川 ひとみ	関川村立関川中学校養護教諭	
高橋まち子	関川村立土沢小学校養護教諭	平成21年度
伊 藤 裕 子	関川村立関川小学校養護教諭	平成22年度
渡 邉 三代子	関川村立女川保育園長	
斎 藤 主 税	NPO法人まちづくり学校副代表	平成21年度
杉 本 智 子	新発田地域振興局健康福祉環境部医薬予防課	
佐々木 綾 子	村上保健所長(村上地域振興局健康福祉部)	
宇 田 優 子		平成21年度
清 野 晴 美	++ L. J.	平成22年度
広 沢 圭 子	村上地域振興局健康福祉部地域保健課	平成21年度
栃 倉 恵 理		平成22年度
平 田 誠	関川村住民福祉課長	
近 百合	関川村住民福祉課地域包括支援センター班長	
須 貝 朝 子	関川村住民福祉課健康介護班長	
新 野 由美子		平成21年度
加藤悠	   関川村住民福祉課健康推進担当	
佐々木 沙 織		
高 橋 みなみ		平成22年度

# 【事務局】

齋	藤				
稲	垣	暁	美	胆川扑孙兄短礼细伸戽州准扣业	
島	津	心		関川村住民福祉課健康推進担当	

# 関川村歯科保健計画

平成23年3月発行

編集: 関川村役場 住民福祉課 健康介護班

**〒**959 − 3292

新潟県岩船郡関川村大字下関912番地

TEL 0254 - 64 - 1472

FAX 0254 - 64 - 0505

